



マイナビ進学総合研究所

2024年度進学トレンド総括

ver.1.0

分析対象

24年
3月卒

INDEX

はじめに	P.3	III. 24年3月卒生の学校選びに関する意識	P.27
冒頭ご挨拶	P.4	学校選びに関する意識 — TOPICS	P.28
本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧	P.5	志望校選びの際「重視するポイント」（昨年比較）	P.29
本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウイルス影響について	P.6	その学校を進学先として選んだ理由（昨年比較）	P.30
I. 高校生の進学を取り巻く環境	P.7	（保護者調査）進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」	P.31
18歳人口及び高等教育機関入学者数・進学率の推移	P.8	（保護者調査）進路支援に関する家庭状況	P.32
選抜方式別入学者数の推移	P.9	DMと一緒に読む相手	P.33
通信制高校の広がり	P.10	志望校検討に影響するイメージ	P.34
外国人留学生の状況	P.11	進路検討時のマイナス要因	P.35
II. 24年3月卒生の活動タイミング	P.12	IV. 24年3月卒生の情報集め	P.36
活動タイミング — TOPICS	P.13	情報集め — TOPICS	P.37
活動タイミング — TOPICS（昨年結果）	P.14	進路選択や学校選びについて困っていること	P.38
進学先校の「認知時期」（年度比較）	P.15	進路決定のために知りたかったこと／やって欲しかったこと	P.39
進学先校の「認知時期」（学校種別ごと）	P.16	オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報	P.40
進学先校の「認知時期」（年度比較）（学校種別ごと）	P.17	（保護者調査）子どもの進路選択・学校選びにあたってほしい情報	P.41
進学先校の「認知時期」（累計）	P.18	DMでわかると嬉しい情報	P.42
進学先校の「資料請求時期」	P.19	学校案内を読むことによる志望順位の変化	P.43
進学先校の「イベント参加時期」※WEB含む	P.20	V. 2025年卒以降の展望	P.44
進学先校の「出願決定時期」	P.21		
進学先校の「出願決定時期」（累計）	P.22		
「資料請求時期」進学先校と非進学校との比較	P.23		
「イベント参加時期」進学先校と非進学校との比較	P.24		
「イベント参加割合」進学先校と非進学校との比較	P.25		
「出願決定時期」進学先校と非進学校との比較	P.26		



はじめに

冒頭ご挨拶

2023年度は、社会全体が新型コロナウイルス感染症からの回復を進める中で、教育業界も大きな変革を迎えました。

特に、デジタル技術の進展とともに、教育現場ではオンラインと対面のハイブリッドな学びが一層定着し、多様な学習スタイルが共存する時代となりました。

高校生の進路選択においても同様で、オープンキャンパス参加率は大幅にV字回復した前年をさらに上回り対面での情報収集ニーズの高まりが再認識されています。

その一方で、冊子やWEBでの情報収集も活発さを増し、膨大な情報に接触する高校生は情報迷子と化し、「自分に合った人の声を聞きたい、どう生きていこうか相談したい」という個々のニーズに応じた柔軟でかつ誠実な対応がますます求められるようになっていきます。

弊社では、高校生向けのアンケート調査を実施しており、その調査結果やマイナビ進学（進学情報サイト/進学情報冊子）の資料請求状況から、高校生の進路選択の傾向や特徴を分析してまいりました。

本年もこの資料にて分析結果の一部を紹介させていただきます。募集広報業務や進路支援、ひいては学校改革の一助になれば幸いです。

2024年7月 マイナビ進学総合研究所 研究員 石澤 清一



マイナビ進学総合研究所
研究員 石澤 清一

本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧

▼本資料の目的

主に2023年度(4月～3月)にマイナビ進学総合研究所が実施した調査から、高校生の進路選択の実態に迫ること。

▼今回の資料作成に使用したマイナビ進学総合研究所実施調査一覧

調査名称	調査対象	調査時期	回答N数
高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査	マイナビ進学会員（高校3年生）	2020年3月	2,729名
〃	〃	2021年3月	2,630名
〃	〃	2022年3月	3,107名
〃	〃	2023年3月	3,244名
〃	〃	2024年3月	3,195名
マイナビ進学会員定期調査	マイナビ進学会員（高校生）	2022年5月	996名
〃	〃	2023年6月	1,653名
〃	〃	2023年9月	2,162名
〃	〃	2023年12月	2,001名
〃	〃	2024年3月	1,387名
高校生の進路に関する保護者調査	外部パネル （全国の高校1～3年生の保護者）	2021年7月	1,200名
〃	〃	2023年5月	1,200名
DM等に関する高校生の意識調査	マイナビ進学会員（高校生）	2023年10月	2,324名
学校案内に関する高校生の意識調査	マイナビ進学会員（高校生）	2024年2月	1,825名
マイナビ進学 大学認知度・イメージ調査2023	マイナビ進学会員 （高校3年生のみ）	2023年7月	14,468名

本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウイルス影響について

▼本資料における短縮表記について

誌面の都合により、下記のように短縮表記をする箇所があります。悪しからずご了承ください。

- ・「短期大学」・・・『短大』
- ・「専門学校」・・・『専門』
- ・「高校●年生」・・・『高●』 『高●生』 『●年』 など

▼年度表記とコロナウイルス影響について

下記の通りまとめておりますのでご参考ください。

西暦年度	和暦年度	期間	入試年度	2023年卒	2024年卒	2025年卒	緊急事態宣言	まん延防止等重点措置
2021年度	令和3年度	2021/4/1- 2022/3/31	「2022年度入試」	高2	高1	-	③2021/4/25～6/20 ④2021/7/12～9/30	①2021/4/5～9/30 ②2022/1/9～3/21
2022年度	令和4年度	2022/4/1- 2023/3/31	「2023年度入試」	高3	高2	高1	-	-
2023年度	令和5年度	2023/4/1- 2024/3/31	「2024年度入試」	-	高3	高2	-	-

↑ 本資料の主な分析対象



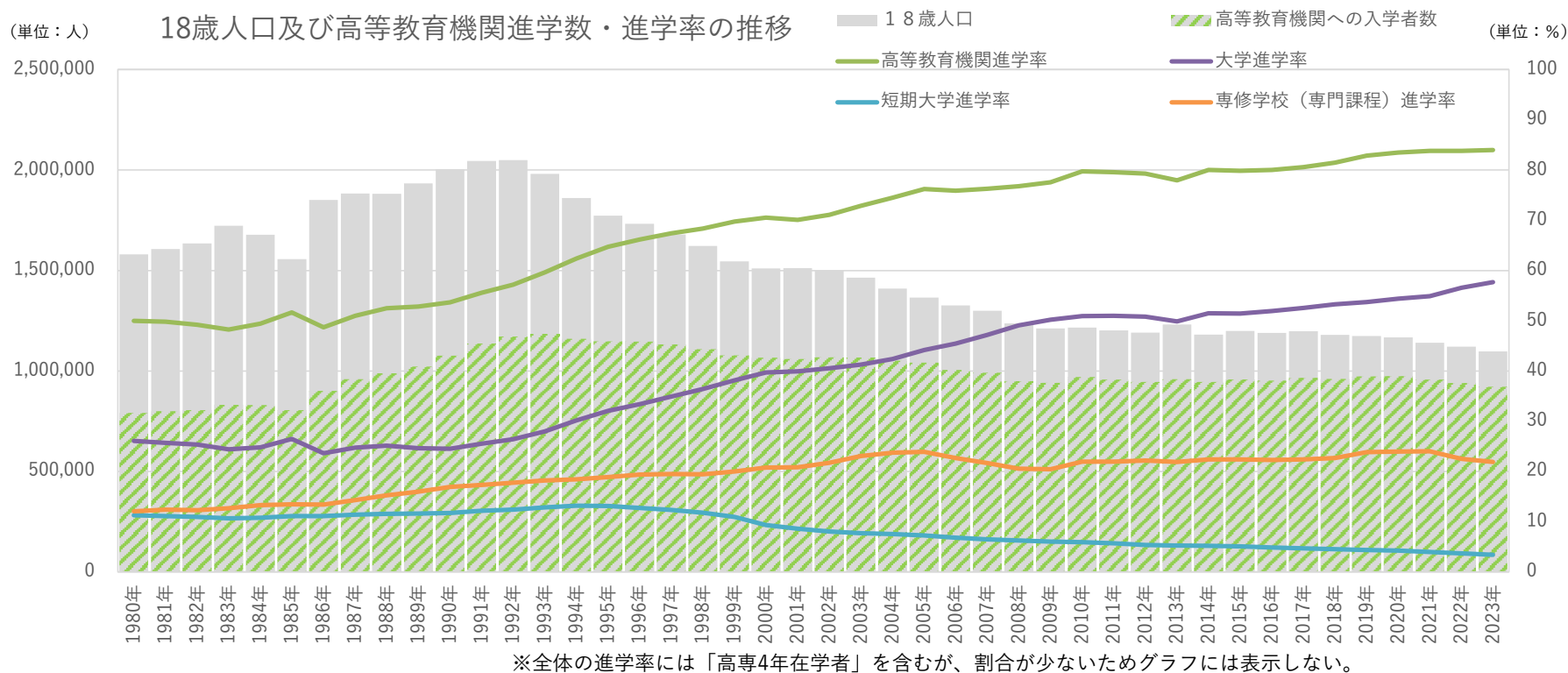
9	107654	108451	109276	110112	11090
2	107655	108457	109279	110117	11091
5	107660	108460	109292	110122	11091
6	107665	108473	109293	110124	11093
1	107667	108474	109298	110127	11093
6	107670	108479	109303	110132	11093
8	107675	108484	109305	110731	11094
1	108277	108486	109308	110731	1094
6	108297	108486	109308	110731	1094
8	108300	108486	109308	110731	1095
8	108310			110731	1155
1	108319			110731	1157
1	108331			110731	1157
0	108337			110731	1158
2	108342			110731	1159
8	108344			110731	1160
3	108347			110731	1161
5	108350			110731	1161
8	108353			110731	1162
7	108356			110731	1162
1	108359			110731	1163
5	108362			110731	1163
7	108365			110731	1164
7	108368			110731	1164
0	108371			110731	1165
7	108374			110731	1165
0	108377			110731	1167
4	108380			110731	1175
8	108411			110731	1167
2	108412			110731	1168

1. 高校生の進学を取り巻く環境

18歳人口及び高等教育機関入学者数・進学率の推移

18歳人口は引き続き減少。大学進学率は上昇トレンドをキープ。

18歳人口は引き続き減少傾向で、文部科学省の推測では来年も減少が見込まれている。大学進学率は57.7%と過去最高値を記録。これで8年連続で最高値を更新したこととなる。一方、短期大学進学率は下降が続き、専門学校進学率は2年連続減少と、いずれも入学者確保に苦戦を強いられるか。



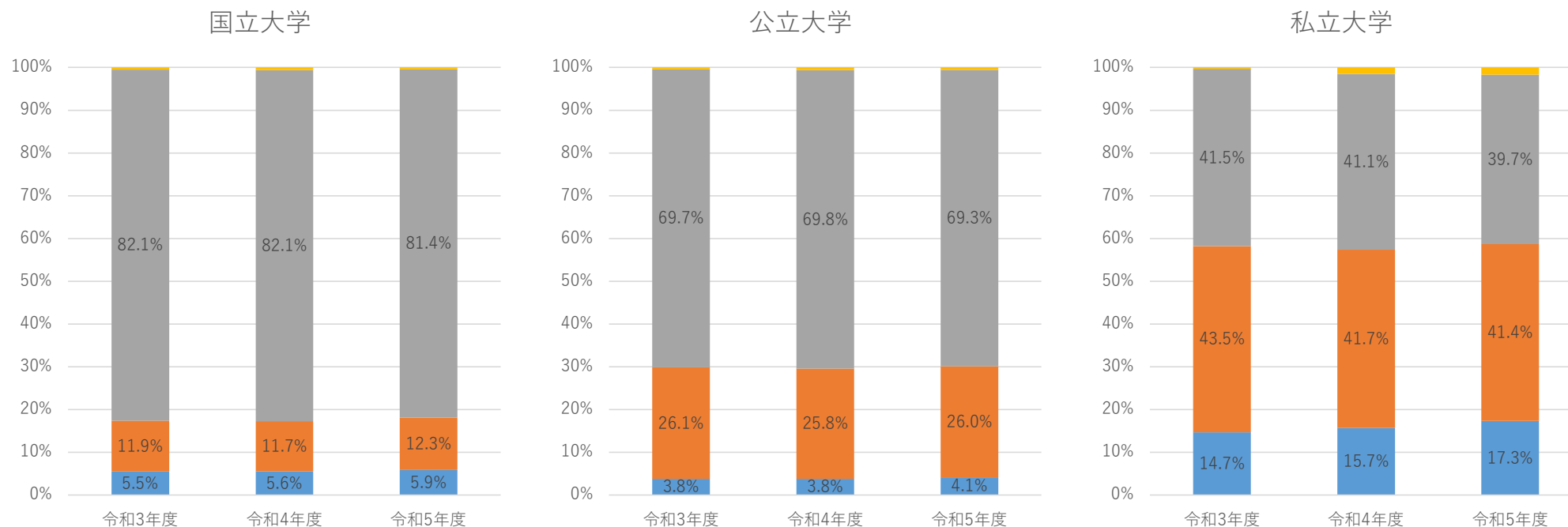
【参照元データ】
・学校基本調査（年次統計、中学校卒業業者数、中等教育学校前期課程修了者数）

選抜方式別入学者数の推移

国公立全ての大学において総合型選抜の利用割合が増加

選抜方式別の入学者数を、直近3か年の推移データで示した。総合型選抜は国公立、私立ともに増加傾向であり国公立は0.3ptずつの増加と微増であるが、私立は+1.5ptと今後さらなる拡大フェーズに突入するかが注目となる。一方で一般選抜においてはいずれも減少となり、年内入試傾向がより顕著になっている。

選抜方式別入学者数の推移 ■総合型選抜 ■学校推薦型選抜 ■一般選抜 ■その他入試



【参照元データ】
・文部科学省「国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」

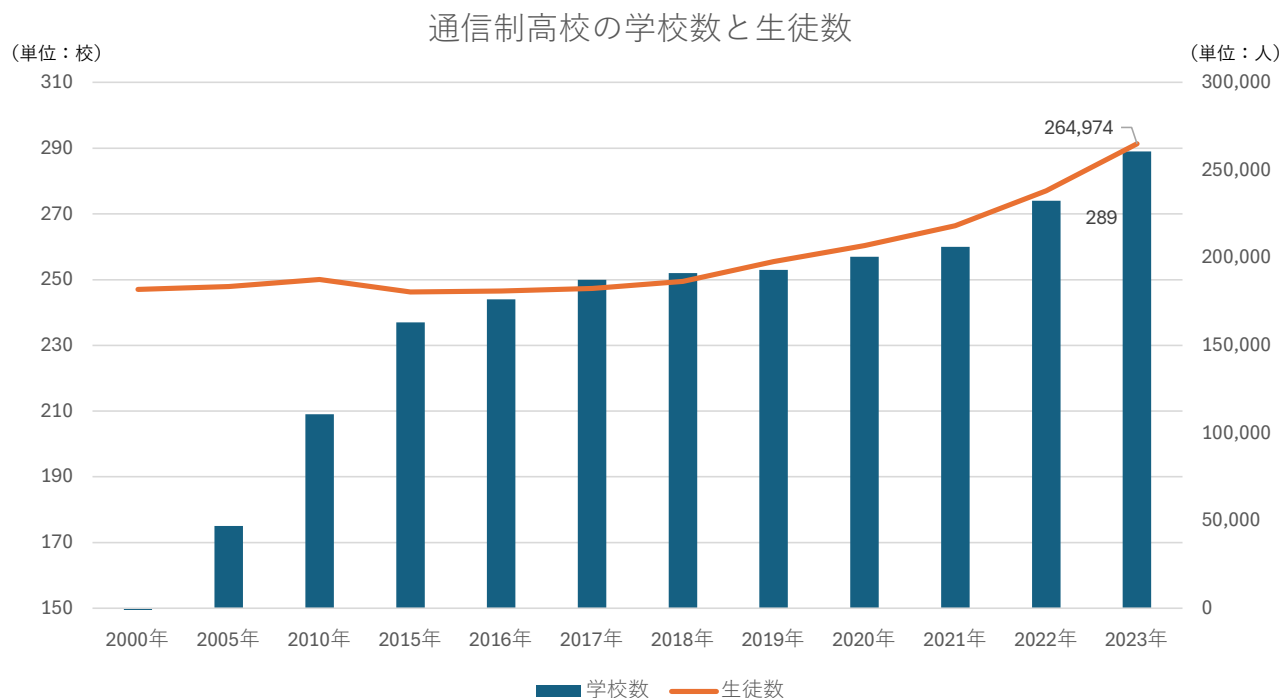
通信制高校の広がり

通信制高校は年々拡大傾向

通信制高校の学校数と生徒数を2015年以降のデータを基に図式化。

学校数は22年より急増し、21年→22年で14校、22年→23年で15校それぞれ増加した。

生徒数は19年頃から本格的な増加フェーズとなり、学校数が急増した22年より増加幅がさらに大きくなった。コロナ禍でのオンライン授業の普及に伴い、高校進学が多様性が広く認知されたことが要因の1つか。



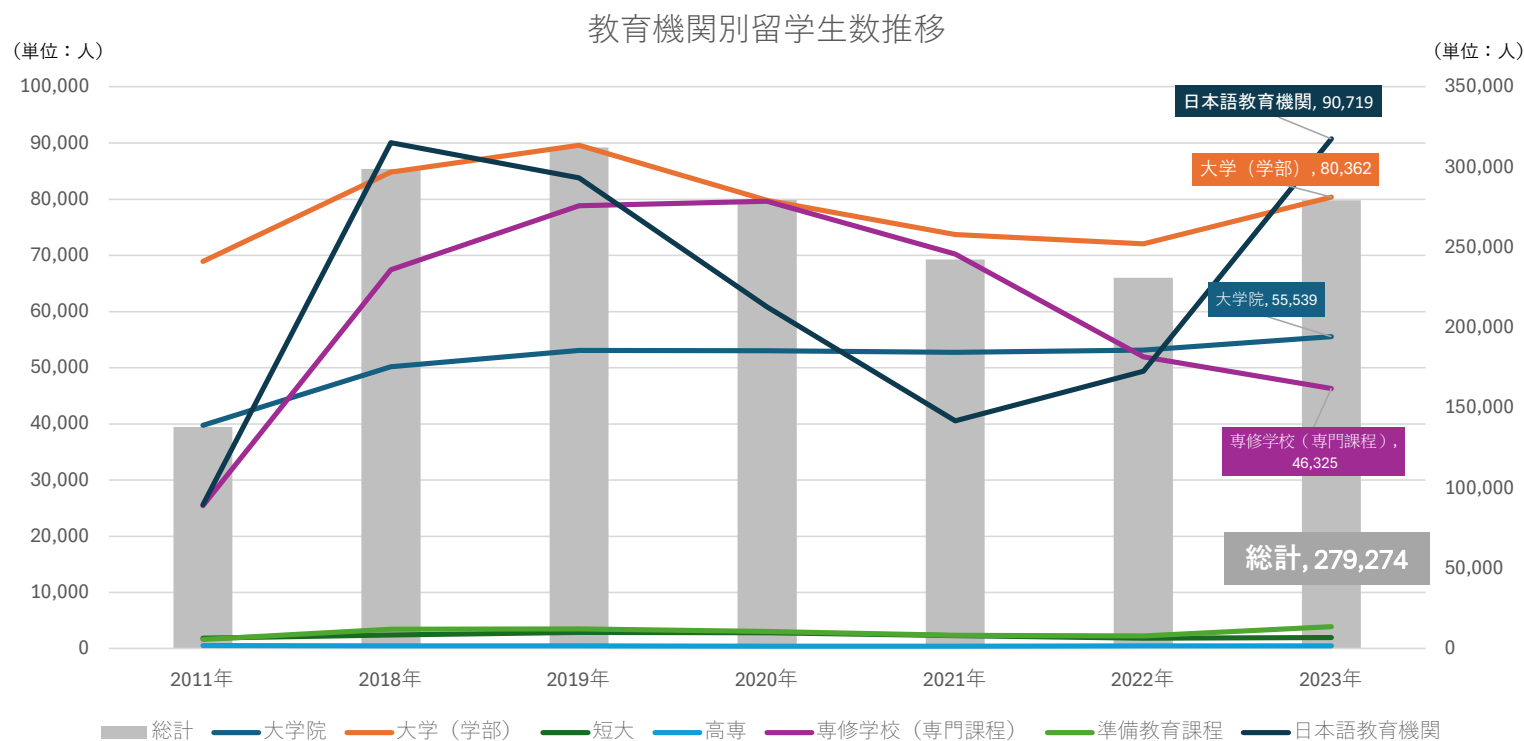
【参照元データ】

・学校基本調査（年次統計、通信制、学校数・学科数（本科）、都道府県別生徒数）

外国人留学生の状況

日本語教育機関への留学生が激増

留学生数の推移を教育機関別に示した。留学生はコロナウイルスの影響で2020年より減少を続けていたが、23年より増加に転じた。特筆すべきは日本語教育機関の学生数で、22年は約5万人だったところ23年には約9万人と1.8倍近くの大規模な増加となった。日本語教育機関の学生数増加が学生募集におけるプラス要因となることを期待したい。



【参照元データ】
・（独）日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」



II.24年3月卒生の活動タイミング

全体的に早期化傾向が続く

本章の内容を下記表のとおり1枚にまとめ、学校種別（大学／短大／専門／全体）により色分けしている。
 昨年のもまとめ（次ページ参照）と比較すると、全体の認知累計が70%に達するのが約3か月ほど前倒しになった。
 また全体のイベント参加や出願決定の最多時期も前倒しされ、具体的なアクション全般に早期化が見られる結果となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生										【大学】認知第2ピーク 【短大】認知第2ピーク		
2年生	【大学】認知最多時期 【短大】認知最多時期						【全体】認知 約70%認知済み			【専門】認知第2ピーク		
3年生	【短大】認知第2ピーク 【専門】認知最多時期											
	【全体】認知 約90%認知済み	【全体】出願決定 最多時期										
	【全体】資料請求 最多時期	【全体】出願決定 約45%決定済み							【全体】出願決定 約88%決定済み			
	【全体】イベント参加 最多時期											

活動タイミング — TOPICS (昨年結果)

【参考】2023年度進学トレンド総括 より

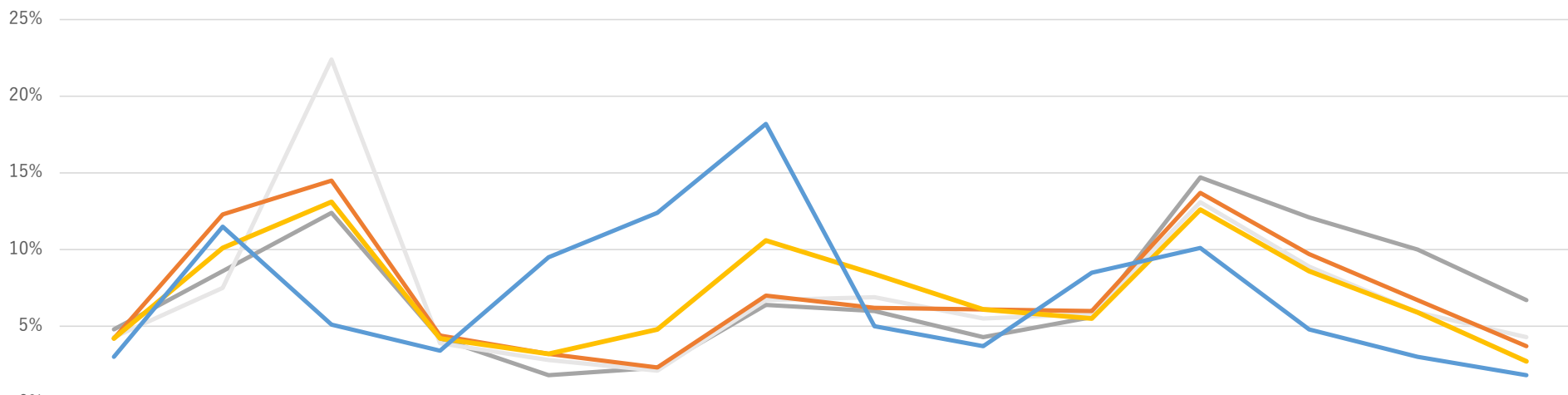
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	【大学】認知最多時期 【短大】認知第2ピーク											
2年生				【専門】認知第2ピーク						【全体】認知約70%認知済み		
3年生	【大学】認知第2ピーク 【短大・専門】認知最多時期			【全体】認知約90%認知済み								
	【全体】資料請求最多時期			【全体】イベント参加最多時期								
	【全体】出願決定約45%決定済み			【全体】出願決定最多時期			【全体】出願決定約88%決定済み					

進学先校の「認知時期」 (年度比較)

1年生10月～2年生6月の認知が活発化

進学する学校を知った時期の調査。2024年3月卒は「2年生4～6月」「1年生1～3月」「中学生以前」の順に回答割合が高い。2023年3月卒までは3年連続で「1年生4～6月」が最多の認知時期だったため、認知のボリューム時期は後ろ倒しとなった。ただ「1年生10月～2年生6月」だけで40.1%を占めているので、この時期の動きが例年以上に活発になったことが伺える。

進学する学校を知った時期



	覚えていない	中学生以前	1年生_4-6月	1年生_7-9月	1年生_10-12月	1年生_1-3月	2年生_4-6月	2年生_7-9月	2年生_10-12月	2年生_1-3月	3年生_4-6月	3年生_7-9月	3年生_10-12月	3年生_1-3月
2020年3月	4.8%	8.6%	12.4%	4.2%	1.8%	2.3%	6.4%	6.0%	4.3%	5.6%	14.7%	12.1%	10.0%	6.7%
2021年3月	4.3%	7.5%	22.4%	3.9%	2.8%	2.1%	6.7%	6.9%	5.5%	5.8%	13.1%	8.9%	5.9%	4.3%
2022年3月	4.2%	12.3%	14.5%	4.4%	3.2%	2.3%	7.0%	6.2%	6.1%	6.0%	13.7%	9.7%	6.7%	3.7%
2023年3月	4.2%	10.1%	13.1%	4.2%	3.2%	4.8%	10.6%	8.4%	6.1%	5.5%	12.6%	8.6%	5.9%	2.7%
2024年3月	3.0%	11.5%	5.1%	3.4%	9.5%	12.4%	18.2%	5.0%	3.7%	8.5%	10.1%	4.8%	3.0%	1.8%

【参照元データ】

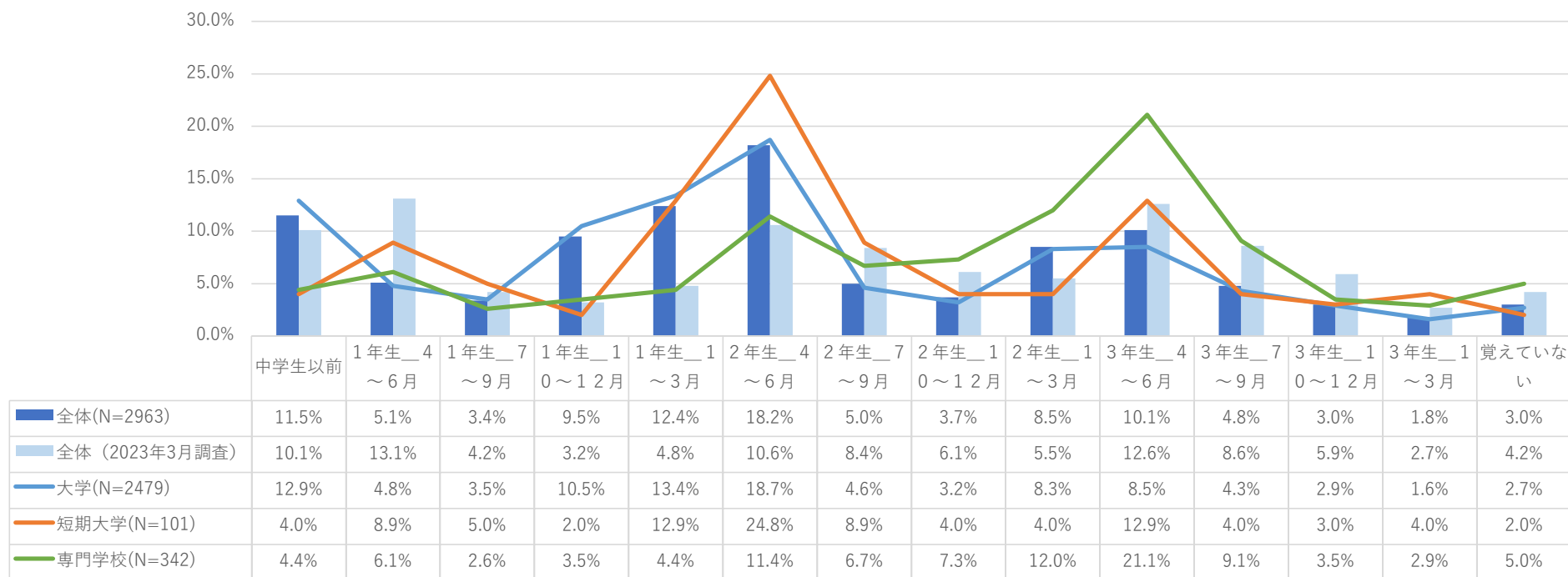
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査/2020/2021/2022/2023/2024

進学先校の「認知時期」(学校種別ごと)

大学・短大は「2年生4～6月」、専門は「3年4～6月」がピーク

進学する学校を知った時期を学校種別ごとに集計。回答最多は、大学「2年生4～6月」(18.7%)、短期大学「2年生4～6月」(24.8%)、専門学校「3年生4～6月」(21.1%)となった。例年は、いずれの学校種別も「1年生4～6月」に山があったが今回は見られない。入学してすぐの“進路探し”こそ控え目だったようだが、どの種別でも「2年生4～6月」に認知が進んだ。

進学する学校を知った時期

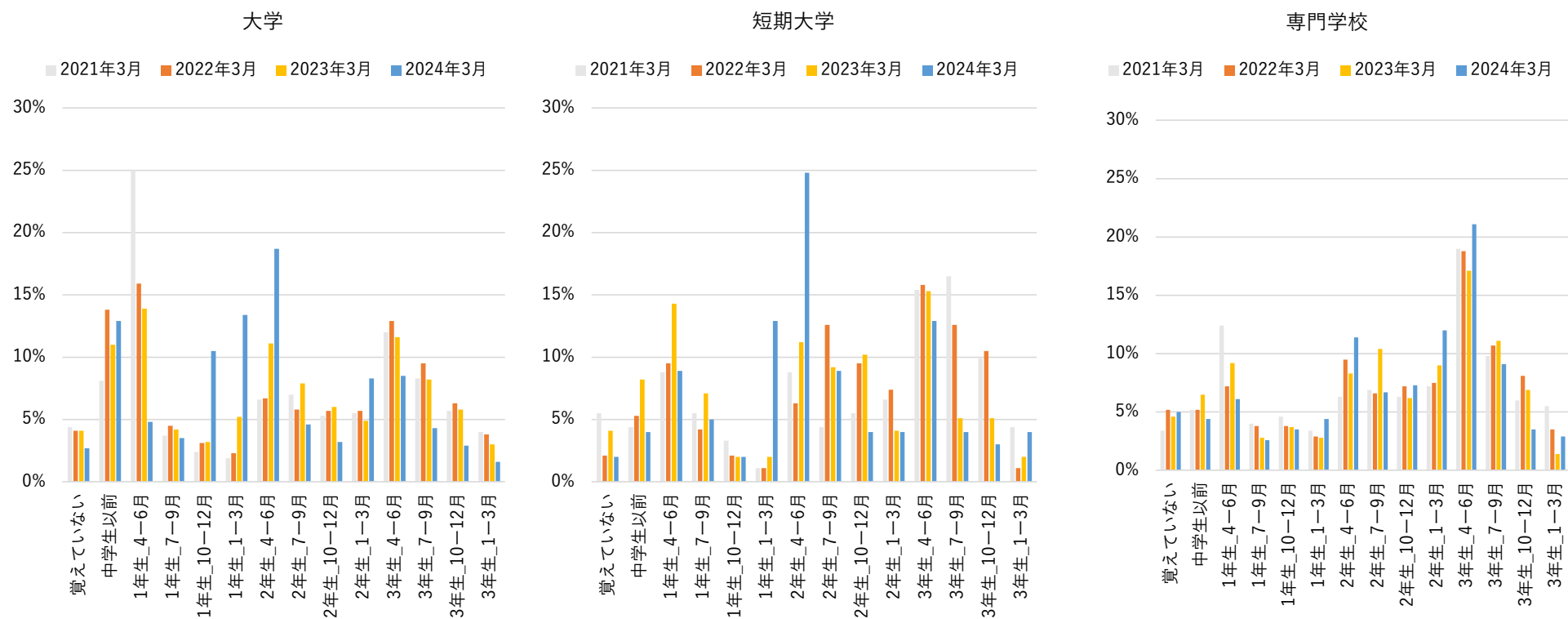


【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

進学先校の「認知時期」 (年度比較) (学校種別ごと)

「3年生4～6月」の回答割合は学校種別・調査年度を問わず高い

進学する学校を知った時期の年度比較を学校種別ごとに行った。大学では2021年度の「1年生4～6月」の回答が突出しているが、2024年度の「1年生10～6月」が過年度と比較してもずば抜けている。短大では2024年度の「2年生4～6月」の回答割合が非常に高い。専門学校はいずれの年度でも「3年生4～6月」の回答割合が高いことが見て取れる。



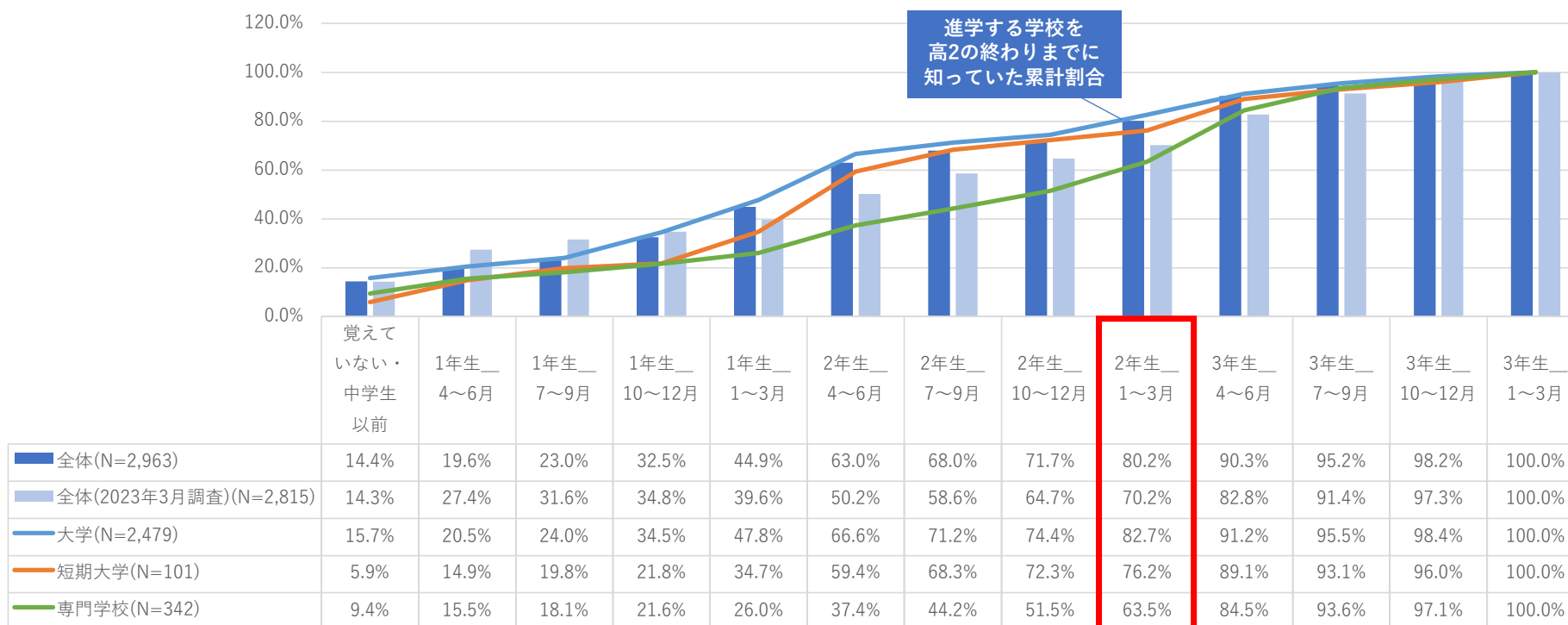
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021/2022/2023/2024

進学先校の「認知時期」 (累計)

2年生が終わる頃には約80%が進学先校を認知済み

進学する学校を知った時期を時期順に累計で表した。序盤こそ同じようなペースで推移しているが、「1年生10～12月」より大学が差を広げ始めていった。短大は「2年生10～12月」に大学に肉薄したが、専門学校はさらにその後「3年生7～9月」に、ようやく追いつく形となった。高2終わりの全体の累計値を見ると、昨年が70.2%に対して、今年は80.2%と認知時期の早期化が進む結果となった。

進学する学校を知った時期 (累計)



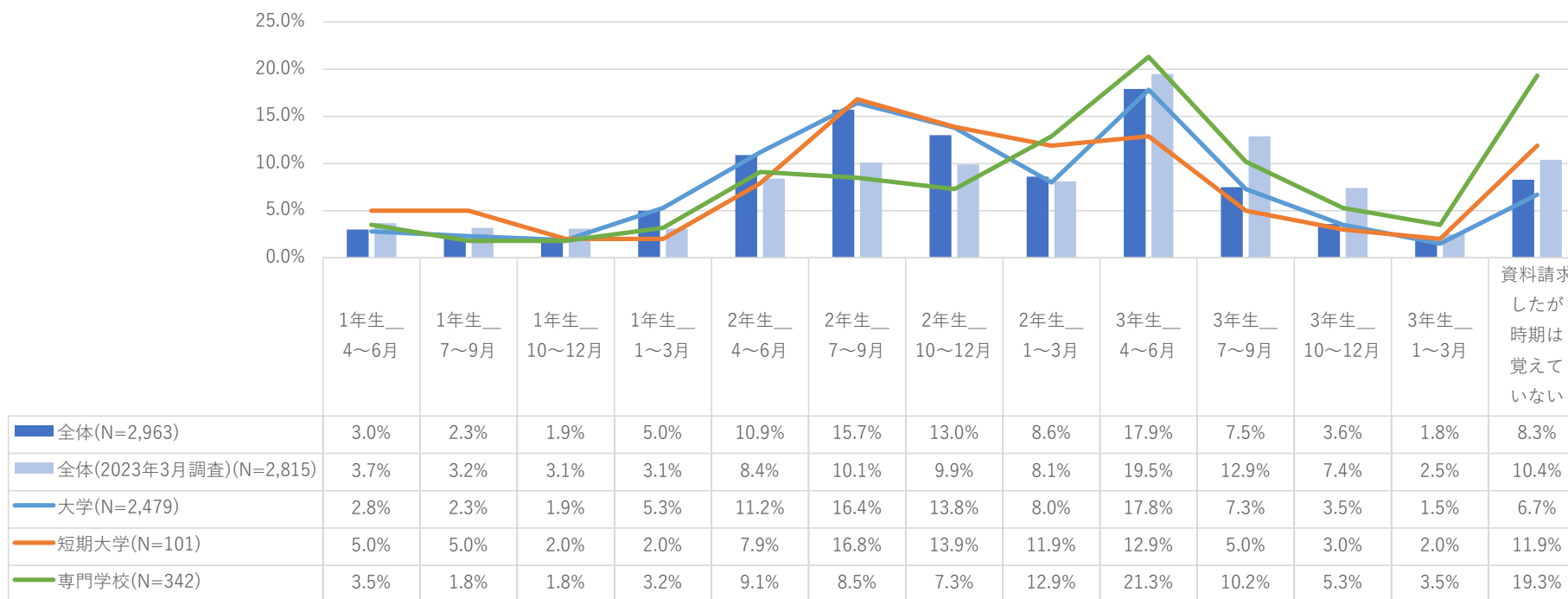
【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

進学先校の「資料請求時期」

高2での資料請求が活発に行われた

進学する学校へ資料を請求した時期については、昨年同様に「3年生4～6月」(全体17.9%)が最も高い割合となった。専門学校においては唯一の山が「3年生4～6月」と、この時期に資料請求が集中していることがわかる。一方、全体では第2ピークの「2年生7～9月」(15.7%)をはじめ、高2の全ての時期において昨年を上回るポイント数となり、高2での資料請求が活発に行われたことが読み取れる。

進学する学校へ資料請求をした時期



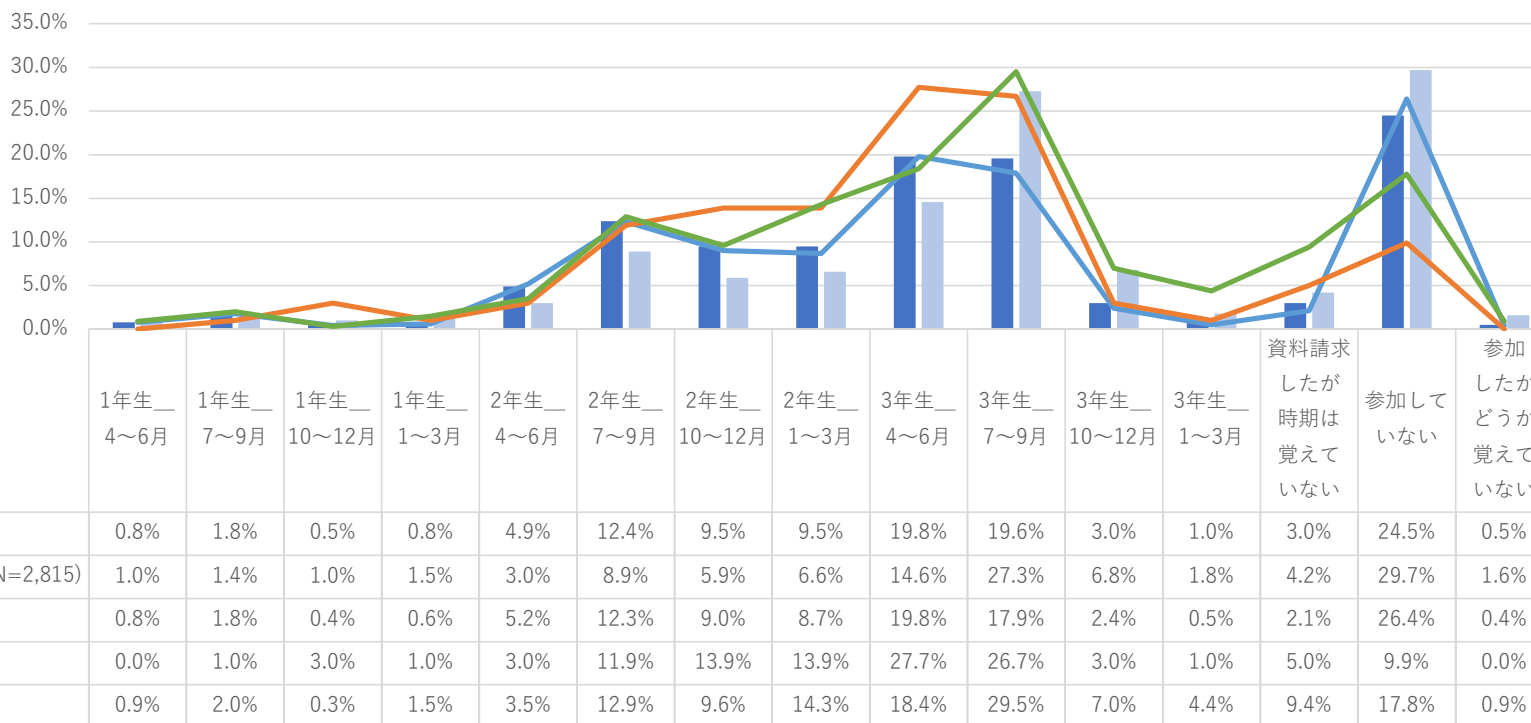
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

進学先校の「イベント参加時期」 ※WEB含む

イベント参加時期は学校種別により、ばらつきが見られた

進学する学校のオープンキャンパス等のイベントへの参加時期については、全体「3年生4～6月」（19.8%）が最多の回答割合となり、0.2ptの差で「3年生7～9月」が続いた。昨年は「3年生7～9月」が突出していたが、今年はイベント参加時期が夏前にも分散していることがわかる。また高2の全ての時期において昨年を上回るポイント数となり、資料請求と同様に高2でのイベント参加も活発に行われたか。

進学する学校のオープンキャンパス・体験入学へ参加した時期



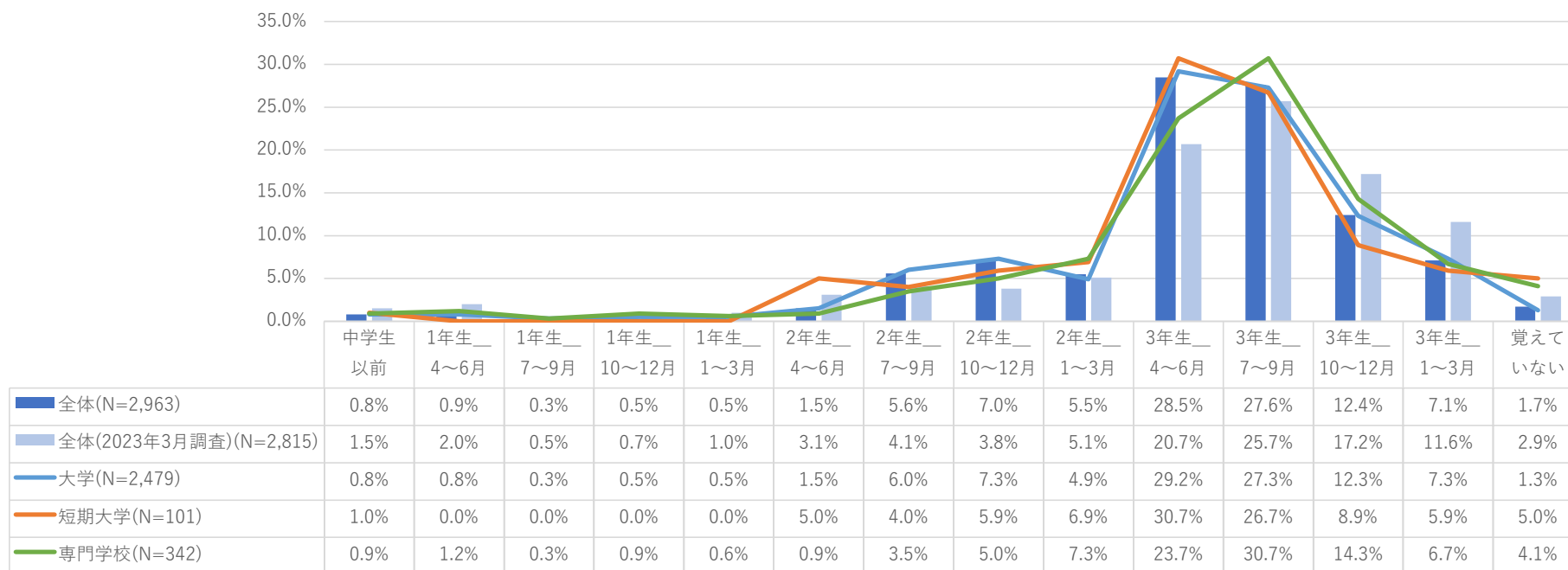
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

進学先校の「出願決定時期」

出願決定時期は「3年生4～6月」が多い

進学する学校へ出願を決定した時期については、「3年生4～6月」（全体28.5%）が最多となりこれは大学・短大も同様。昨年は両種別とも「3年生7～9月」が最多だったため、出願を決定するタイミングが早まったか。専門学校は「3年生7～9月」（全体27.6%）が最も高い回答割合となった。出願決定が増え始めるタイミングは、例年同様に「3年生4～6月」となり変化は見られなかった。

進学する学校へ出願を決めた時期（月別）



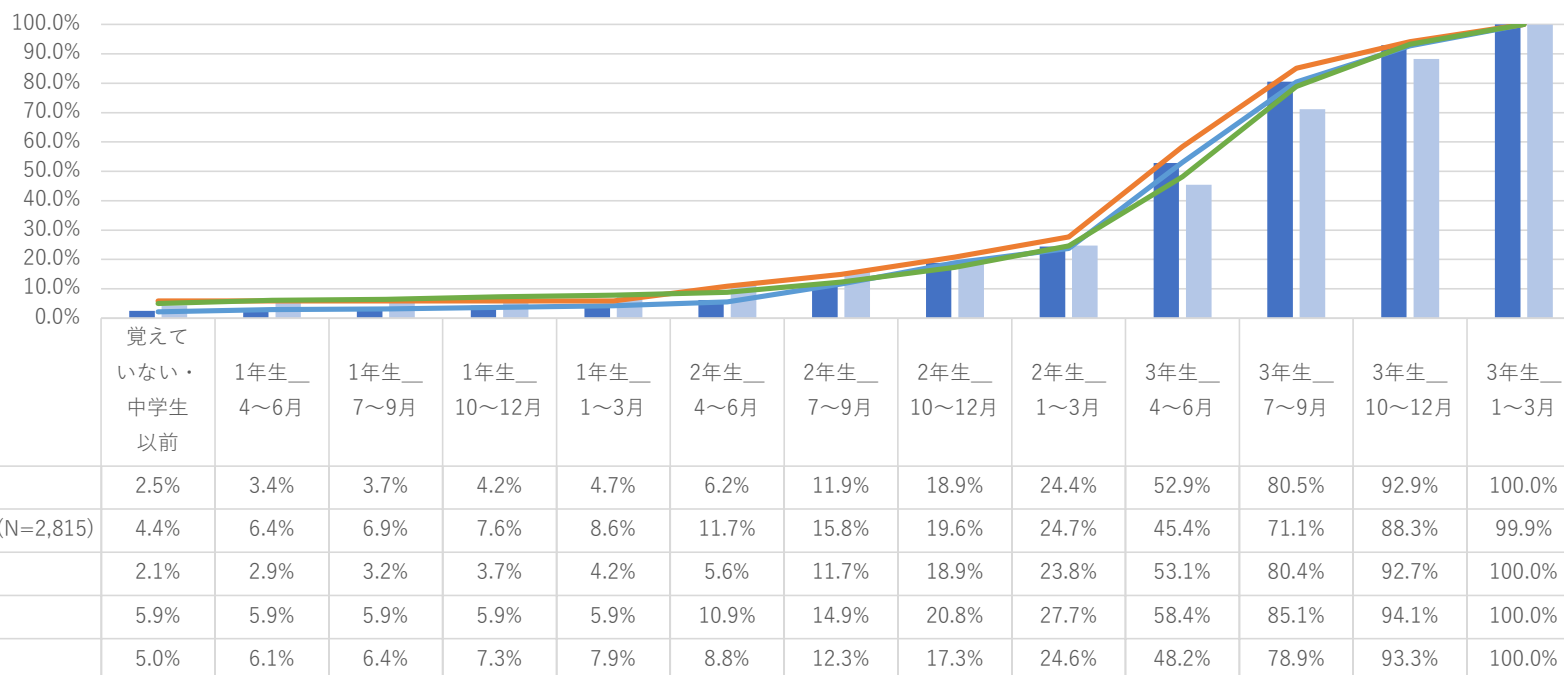
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

進学先校の「出願決定時期」 (累計)

出願を決定した時期は高3以降に加速

出願を決定した時期を時期順に累計で表した。学校種別ごとの変化はあまり見られなかったが、短大の回答割合を高2以降で見ると常に大学・専門学校を上回っていることがわかる。全体の累計値を見ると高2の終わりまでは昨年よりも動きが鈍いが、高3になると逆転することが見て取れる。

進学する学校へ出願を決めた時期 (累計)



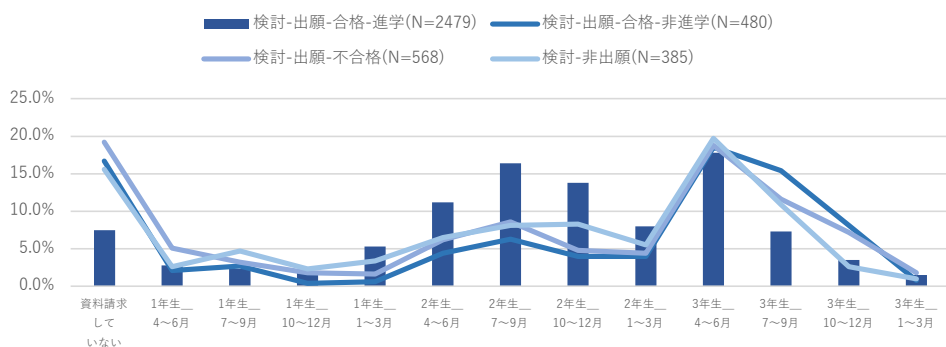
【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

「資料請求時期」 進学先校と非進学校との比較

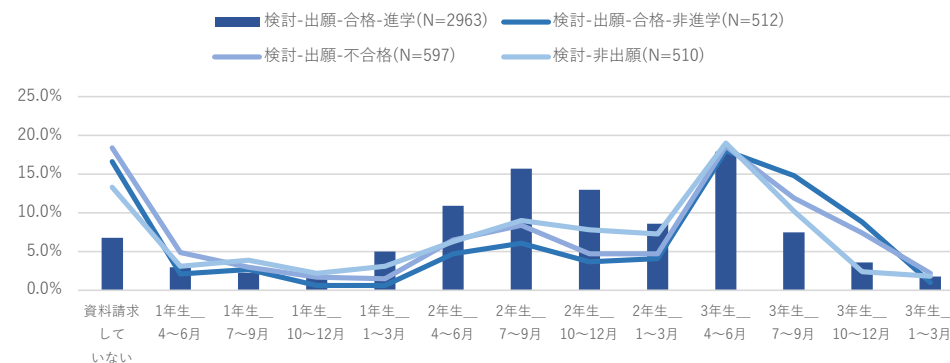
大学において、高2での資料請求有無は進学に影響あり

資料請求時期を、「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。大学では、昨年は資料請求の有無が出願や進学に影響することはなかったが、今年は高2での資料請求が「進学」に影響を及ぼしていることがわかった。専門学校においてはバラツキが見られたため、傾向を示すことは難しい結果となる。

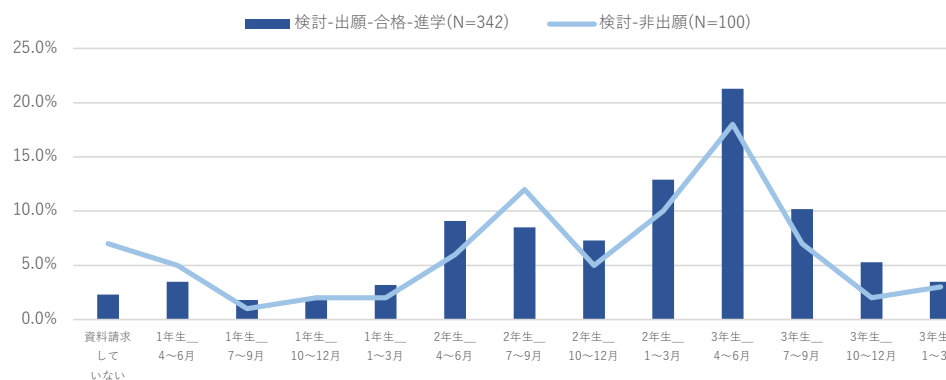
学校へ資料請求をした時期（大学）



学校へ資料請求をした時期（全体）



学校へ資料請求をした時期（専門学校）



※N数が少ない分類に関しては割愛している。

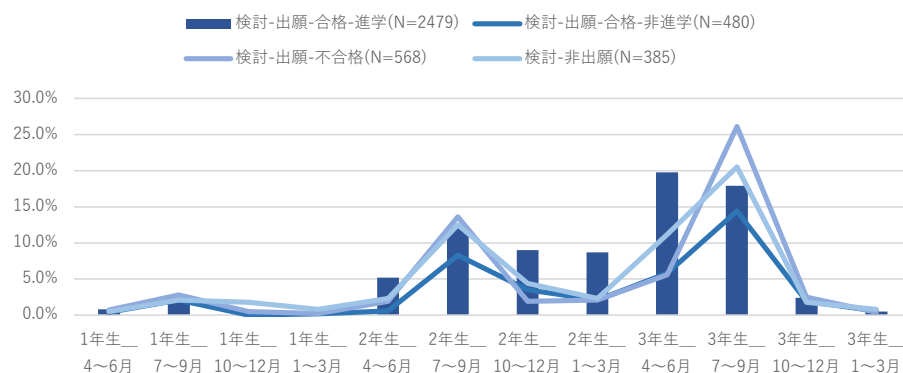
【参照元データ】・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

「イベント参加時期」進学先校と非進学校との比較

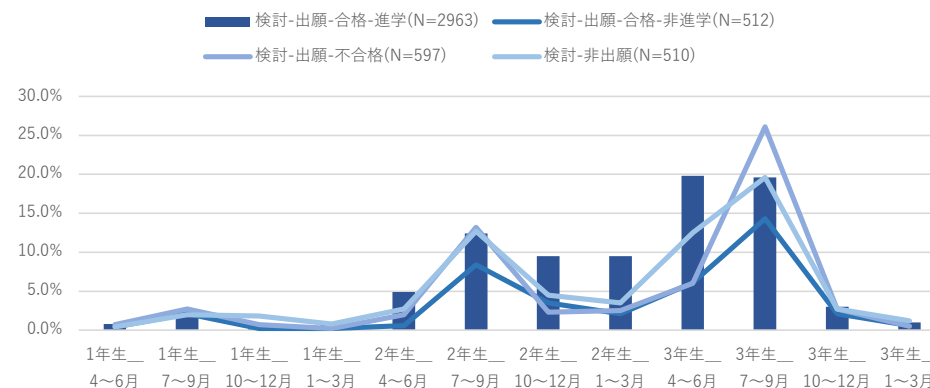
3年生春夏のイベント参加は進学者獲得のキーポイント

オープンキャンパス等のイベントへの参加時期を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。「3年生4～6月」においては大学においては進学先校と非進学先校で結果に乖離が見られた。「3年生7～9月」は専門学校において乖離が見られた。これらの時期でのイベント参加促進が大事となる。

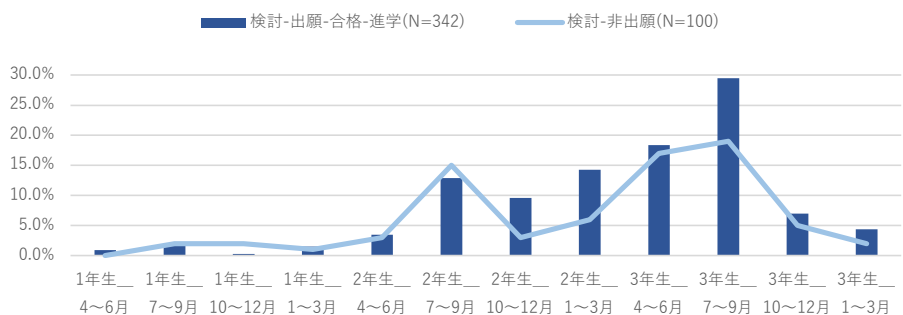
オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（大学）



オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（全体）



オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（専門学校）



※N数が少ない分類に関しては割愛している。

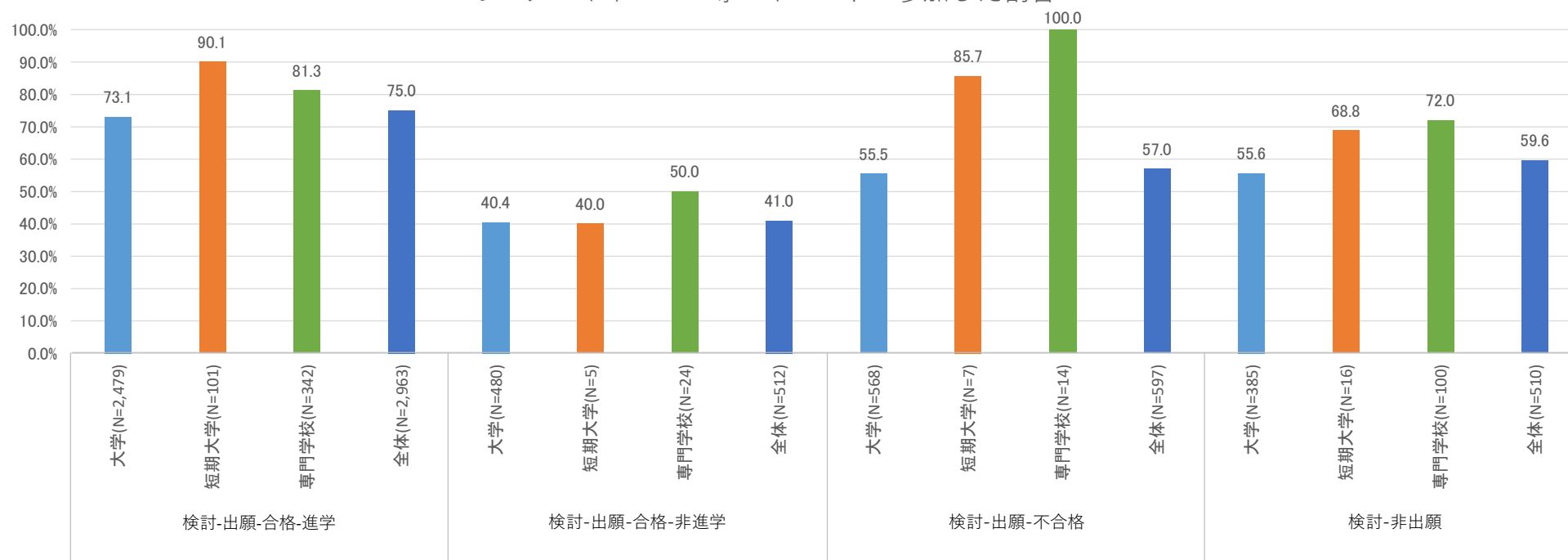
【参照元データ】・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

「イベント参加割合」進学先校と非進学校との比較

進学先校のイベント参加率は全体で7割以上

オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。短大では「進学先校」のイベント参加割合が9割以上に達した。学校種別を問わず、4つのステージにおいて最もイベントの参加割合が低いのは“合格-非進学“となり推測ではあるが、合格可能性の高い第2希望以下の学校はイベント参加を敬遠する傾向があると言えるか。

オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合



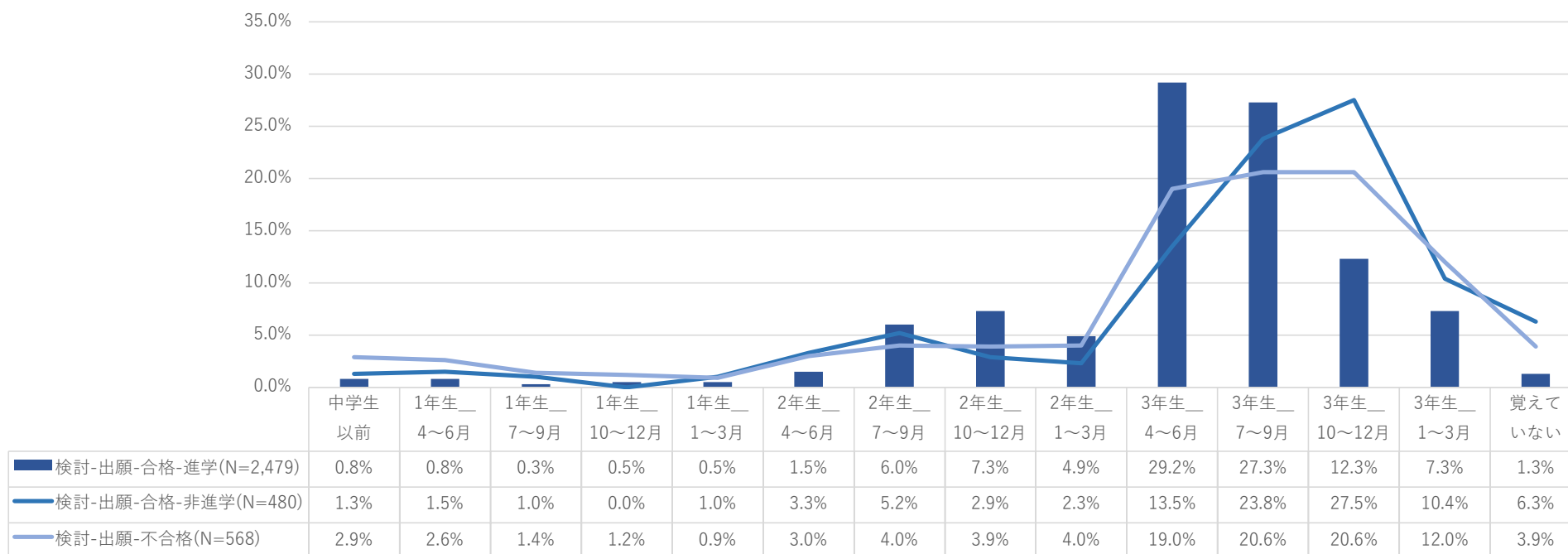
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024

「出願決定時期」 進学先校と非進学学校との比較

3年生の早い時期に出願を決定する学校には進学傾向が優位

出願を決定した時期を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。N数の関係で大学のみ掲載。「3年生4～6月」において、「進学先校」が「非進学先校」の数値を大きく上回る。3年生の早い時期から出願を決めることで、対策にも十分な時間が取れるため“合格-進学”にも好影響を及ぼすか。

出願を決定した時期（大学）



【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024



III. 24年3月卒生の学校選びに関する意識

—保護者をどう巻き込んでいくのか—

進路選択におけるステークホルダーである“保護者”に向け、
どのように情報発信していくか。

これが非常に重要になってきている。

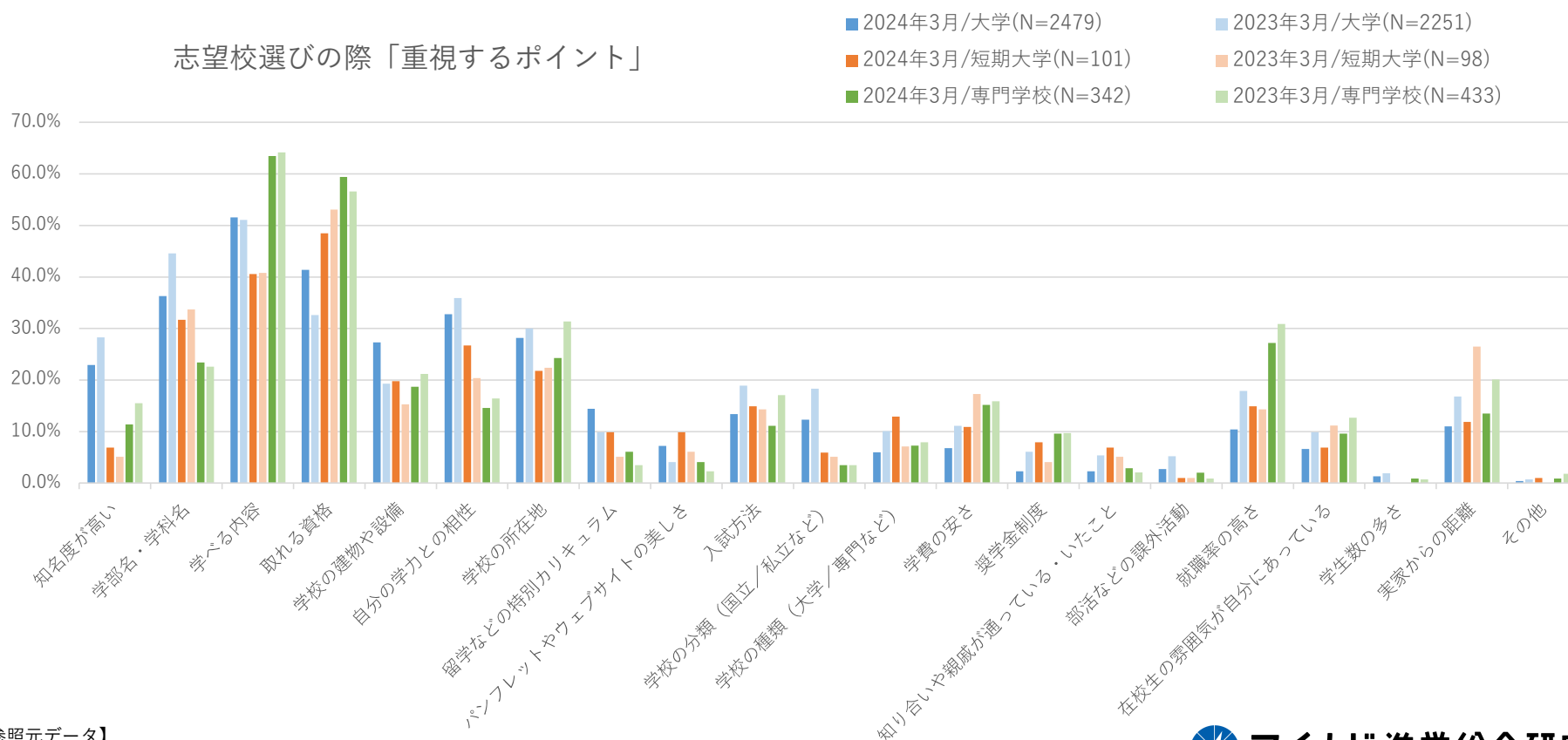
以前よりも進路支援に対する意識が高まり、
オープンキャンパスにも自ら足を運んだりと、

高校生と同程度に保護者に対する訴求を強めていく必要がありそう。
高校生の進路選択においては「学べる内容」が引き続き最重要となるが
大学進学者においては「取れる資格」の重要度があがったりと、
高校生自身の進路選択の基準も少しずつ変化してきている。

志望校選びの際「重視するポイント」（昨年比較）

トップ項目は昨年と同様。大学の「取れる資格」が3位→2位へ。

志望校選びの際「重視するポイント」について聞くと、トップ項目は大学・専門学校では「学べる内容」、短大では「取れる資格」と、いずれも昨年同様の結果となった。特筆すべきは大学で2位にランクインした「取れる資格」で、ジョブ型採用の増加や終身雇用の崩壊が進む中で、自らの名刺代わりとなる“資格”へのニーズが高まっていることが伺える。



【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2023/2024

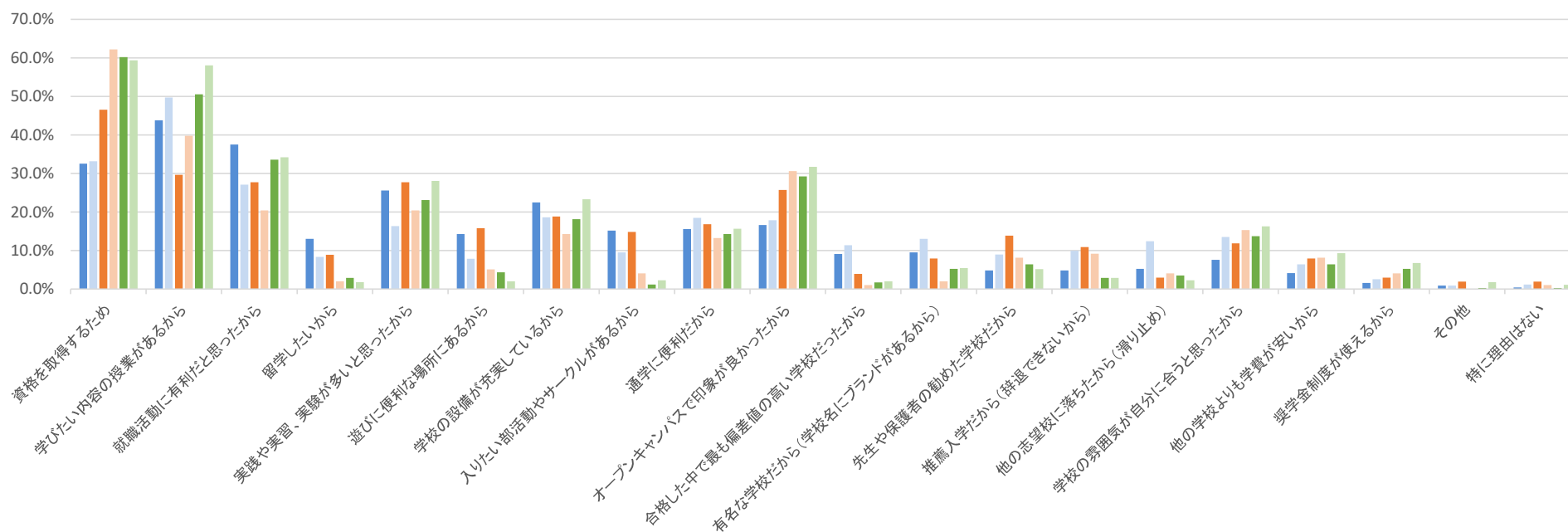
その学校を進学先として選んだ理由（昨年比較）

トップ項目は昨年と同様で変化なし

進学先として選んだ理由について聞くと、トップ項目は昨年と変化なく、大学は「学びたい内容の授業があるから」、短大・専門学校では「資格を取得するため」となった。大学は「就職活動に有利だと思ったから」が3位→2位にランクアップした。前ページにて、志望校選びの際に大学は“資格”を重視していることが読み取れたが、進学先選びという最後の1校に絞るタイミングでは就職活動の有利不利が重視されている。

その学校を進学先として選んだ理由

■ 2024年3月/大学(N=2479) ■ 2023年3月/大学(N=2287)
 ■ 2024年3月/短期大学(N=101) ■ 2023年3月/短期大学(N=98)
 ■ 2024年3月/専門学校(N=342) ■ 2023年3月/専門学校(N=441)



【参照元データ】
 ・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2023/2024

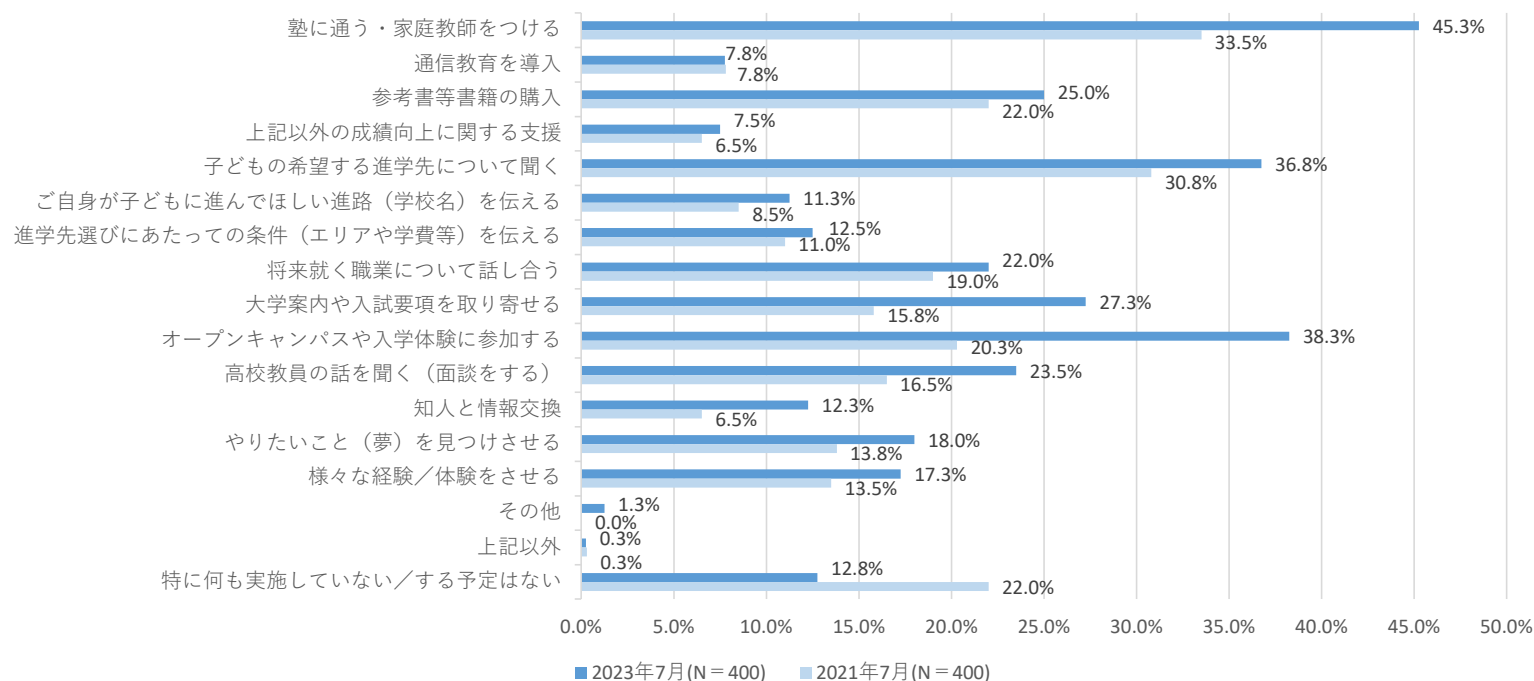
(保護者調査) 進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」

保護者による進路支援は拡大。特にイベント参加が増加。

高3の子を持つ保護者に対して進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」を聞いた。「特に何も実施していない/する予定はない」の割合が10pt近く減少しており、何かしらの形で子どもの進路支援に携わっていることがわかる。支援項目において「オープンキャンパスや入学体験に参加する」は18pt増加と、最も大きい増加幅となった。

進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」

※該当年度の高3生を持つ保護者で比較



【参照元データ】

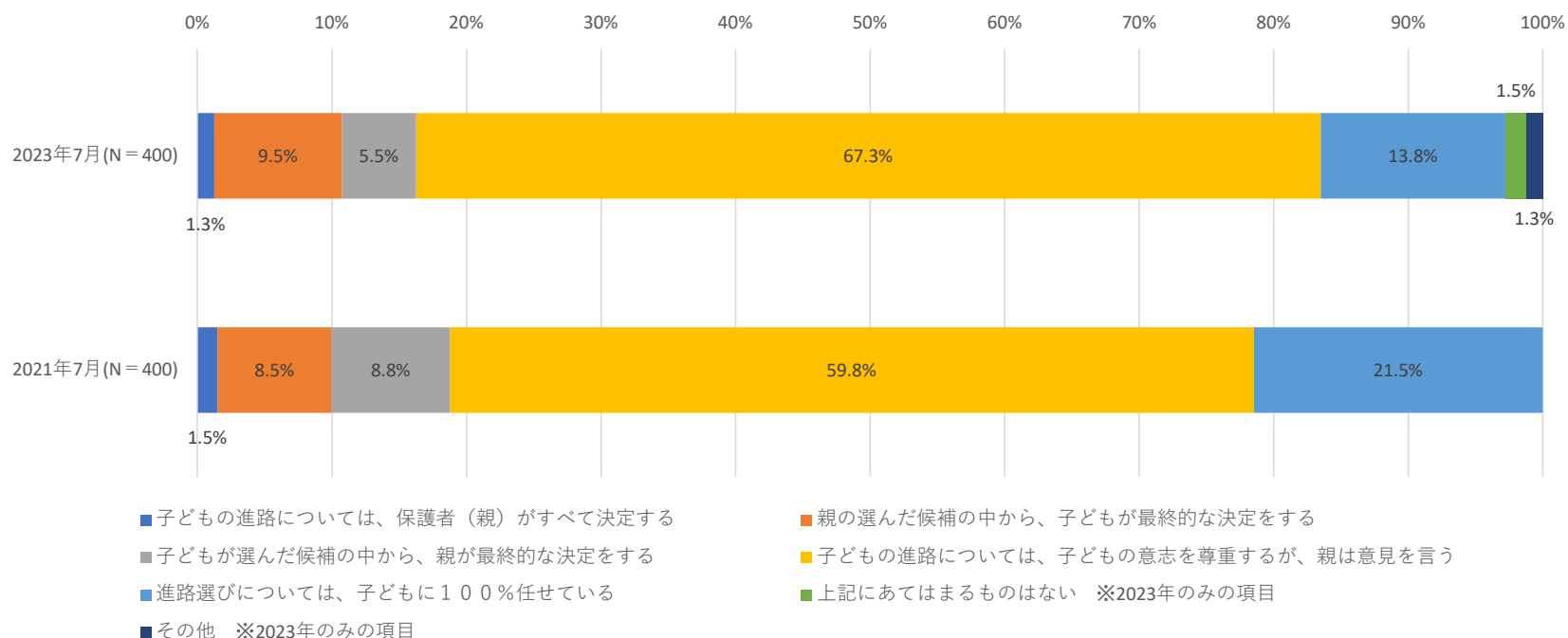
・高校生の進路に関する保護者調査2021年/2023年の高校3年生保護者のみ抽出

8割以上の保護者が子どもに意見を言う

高3の子を持つ保護者に対して進路支援に関するご家庭状況を聞いたが実に8割以上の保護者が子どもの進路に対して意見を言っている結果となり、この割合は前回調査よりも増えている。前ページと同様に、保護者の進路支援への関わり方が強まっていることが伺える。

進路支援について、ご家庭の状況に最もあてはまるもの

※該当年度の高3生を持つ保護者で比較



【参照元データ】

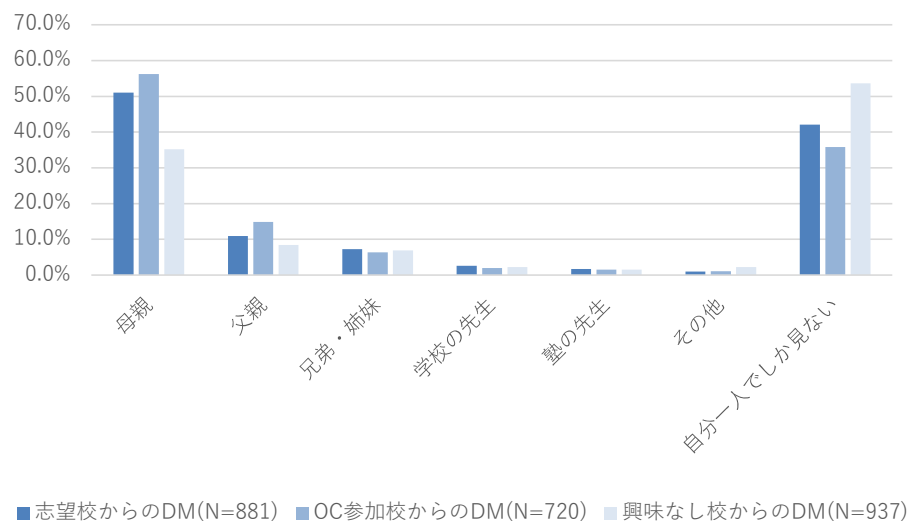
・高校生の進路に関する保護者調査2021年/2023年の高校3年生保護者のみ抽出

DMを一緒に読む相手

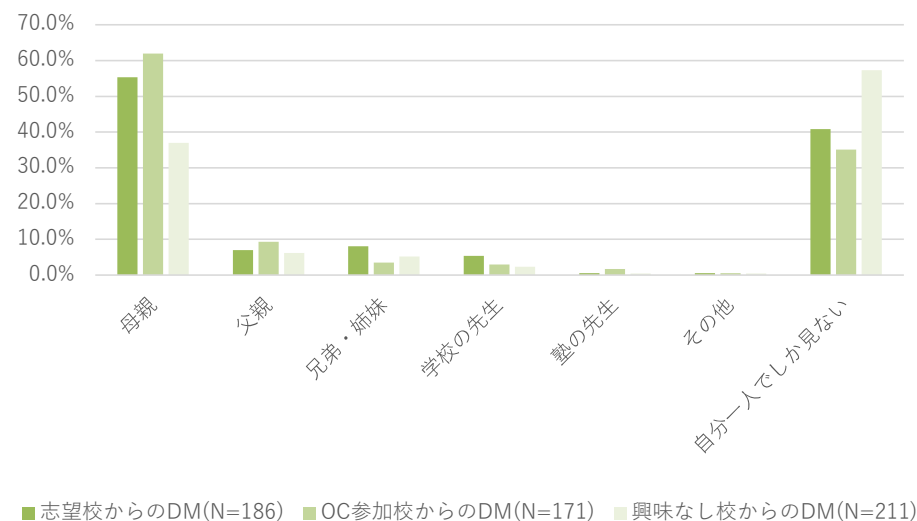
DMは「母親と読む」か、「一人でしか読まない」に偏る結果に

高校生に届いたDMを誰と読むのかを進路検討度合別（志望校、OC参加校、興味なし校）で聞いた。
一緒に読む相手は母親、もしくは自分一人でしか見ないに大別された。志望校・OC参加校では「母親」が最多だった。
一方で興味なし校は「自分一人でしか見ない」が最も高い回答割合となった。これらの傾向は学校種別で変化はなかった。

大学・短大志望者



専門学校志望者



【参照元データ】

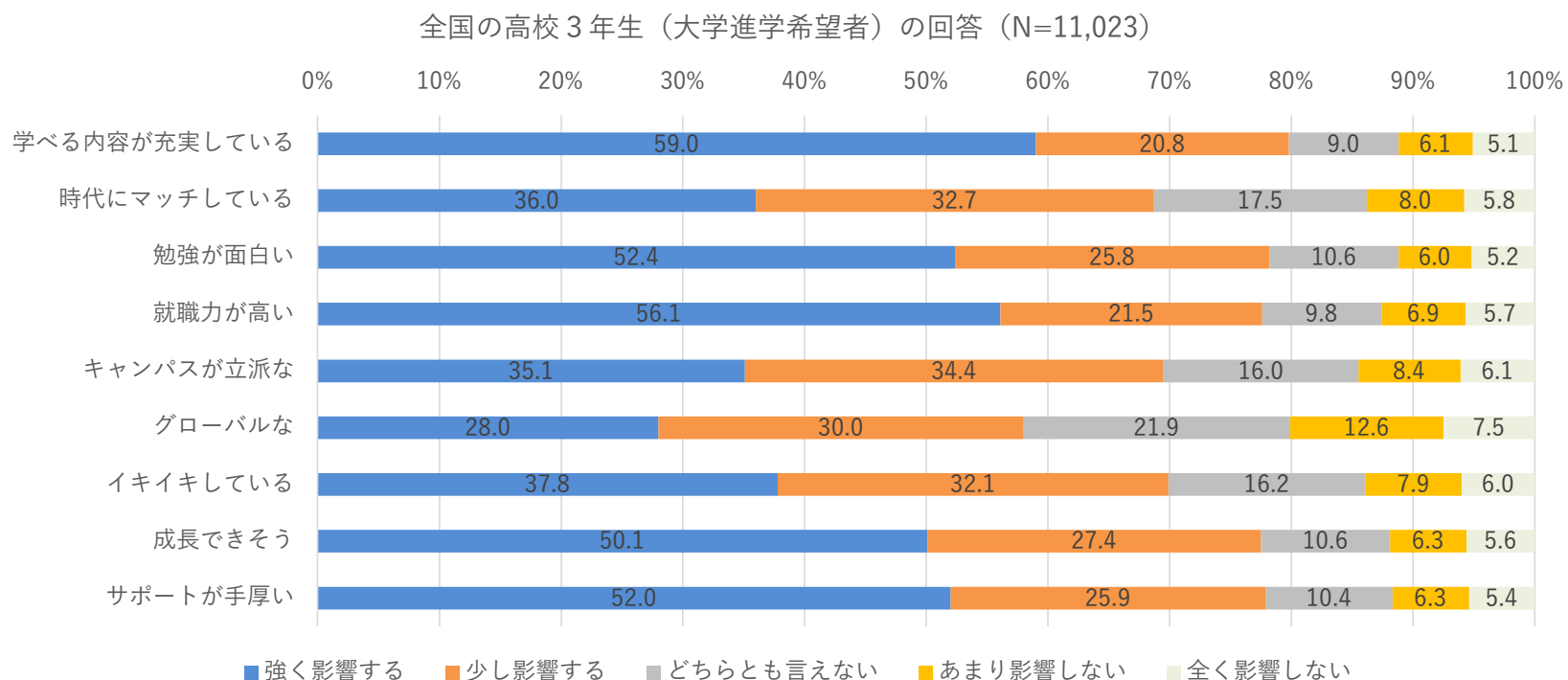
・DM等に関する高校生の意識調査より高3のみ抽出

志望校検討に影響するイメージ

志望校検討に強く影響するのは「学べる内容が充実している」イメージ

志望校検討に影響するイメージ項目を聞いたところ「学べる内容が充実している」が最も多い回答となった。

「学べる内容」については志望校選びの際に重視するポイントでも1位となっており、改めて学びの重要性が伺える結果となった。次いで「就職力が高い」「勉強が面白い」が続いた。



【参照元データ】

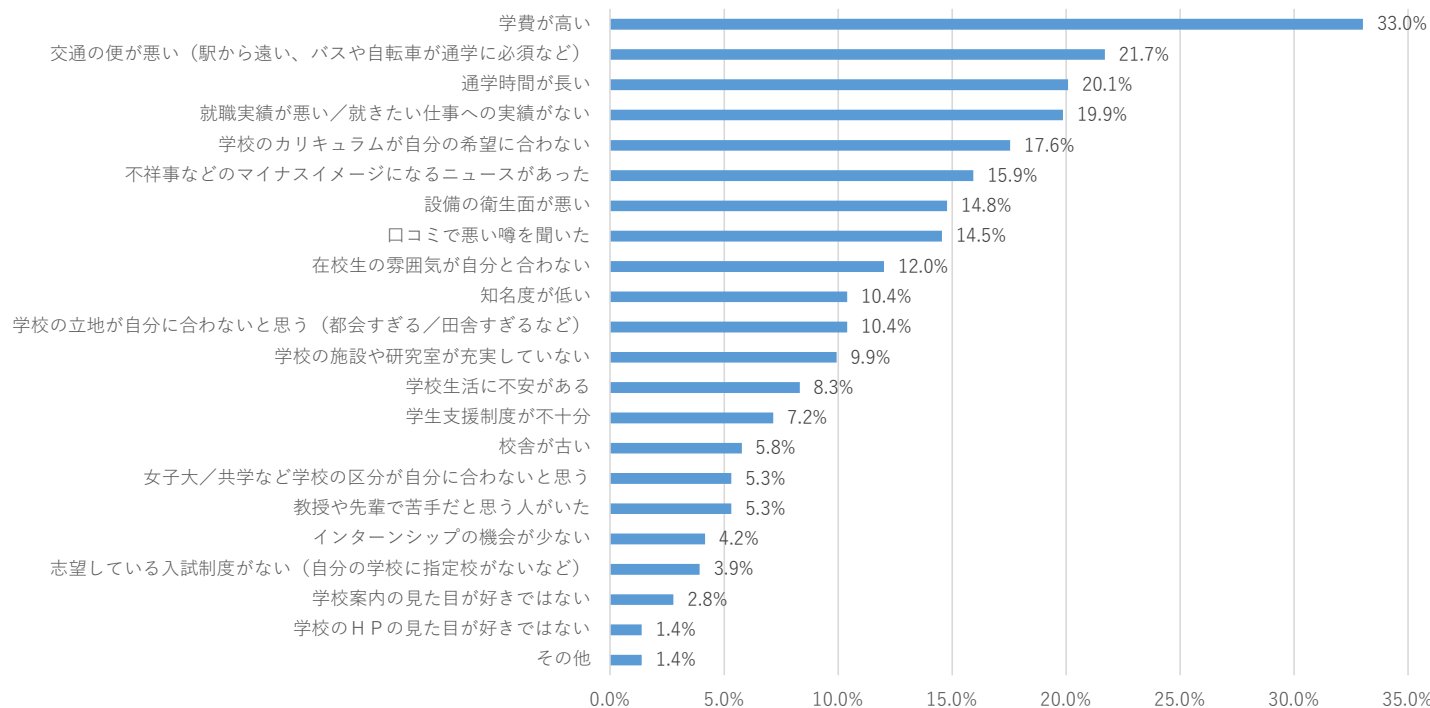
・マイナビ進学 大学認知度・イメージ調査2023より抜粋

進路検討時のマイナス要因

学費と通学面のネガティブ要素は進路検討でマイナスにはたらく

進路検討の際に「マイナス」に作用する可能性が高い項目を聞いたところ、「学費が高い」が突出して多くの回答を集めた。“お金”については進路検討と切っても切り離せないことが改めて伺える結果となった。また「交通の便が悪い」「通学時間が長い」など“通学に関するネガティブ要素”もマイナス要因であることがわかる。一方でこれらは不変のものであるため、変わることが可能な「就職実績」や「衛生面」を見つめ直すことが望ましいと考えられる。

進路検討の際に「マイナス」に作用する可能性が高い項目 (N=433)



【参照元データ】

・マイナビ進学学会員定期調査2024年3月より高3のみ抽出



IV. 24年3月卒生の情報集め

—自分の適性や志向がわからない高校生—

「自分に何が向いているかわからない」

「誰かに教えてほしい。」

高校生からそんな声が聞こえてきそうな結果となった。

欲する情報については高校生が「学び」や「学校の特色」であるのに対して

保護者は「入試情報」と相違が見られた。

情報を提供する相手に応じて

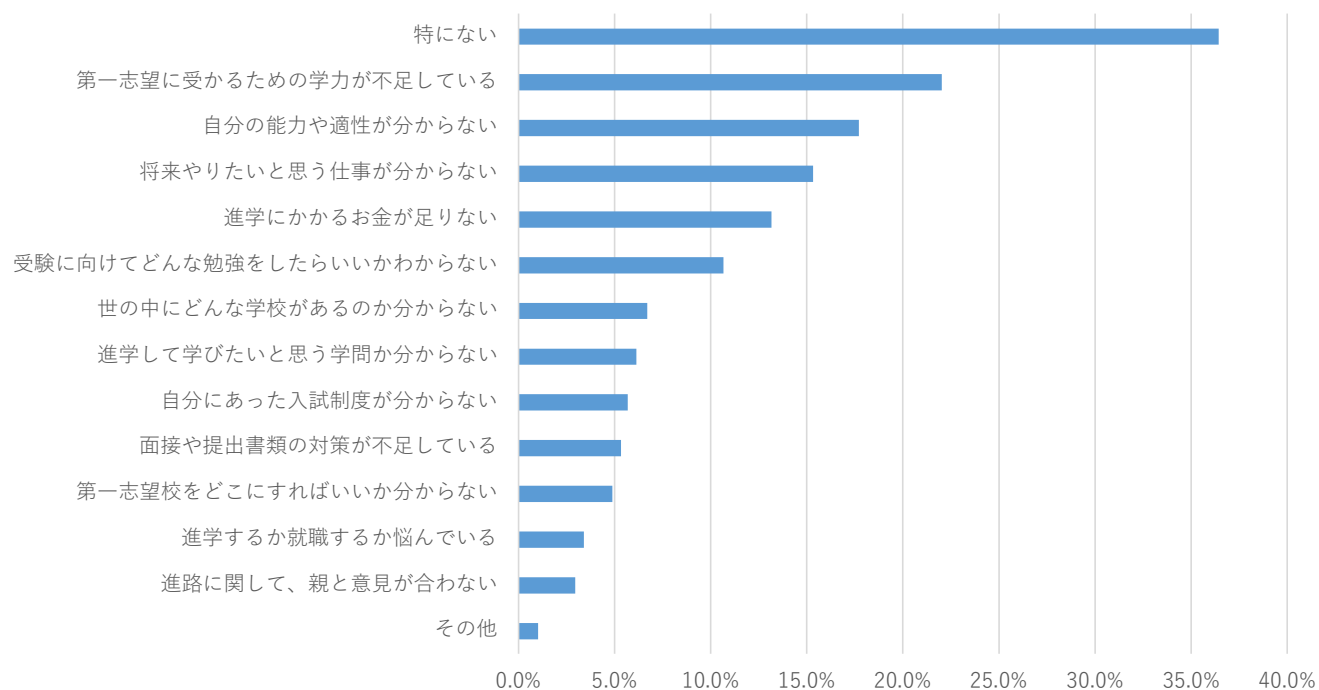
伝える内容も変えていくことが重要となってくるか。

進路選択や学校選びについて困っていること

自己分析の不十分さがうかがえる

進路選択や学校選びについて困っていることを聞いた。年内入試が終盤を迎える中での調査だったこともあり「特にない」が最多の回答となったが、これをのぞけば上位には「自分の能力や適性が分からない」「将来やりたいと思う仕事分からない」がランクインし、「自己分析の不十分さ」に不安を抱えていることがわかった。

進路選択や学校選びについて困っていること (N=881)



【参照元データ】

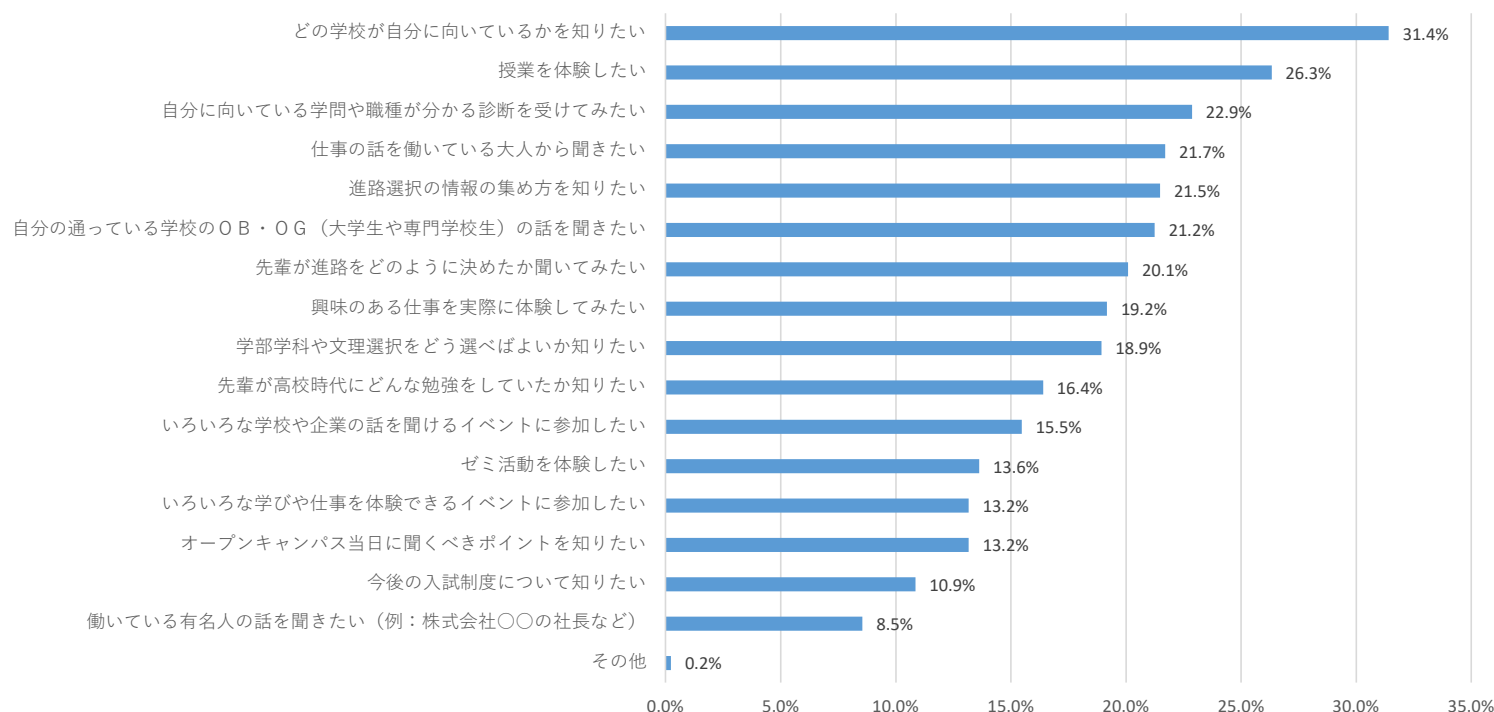
・マイナビ進学会員定期調査2023年12月より高3のみ抽出

進路決定のために知りたかったこと／やって欲しかったこと

自分に何が向いているのかを他者から知りたい

進路決定のために知りたかったことややってほしかったことを聞いたところ、「どの学校が自分に向いているかを知りたい」が最も高い回答割合となった。さらに3番目に「自分に向いている学問や職種が分かる診断を受けてみたい」がランクインしていることから、自分に何が向いているのかを他者に聞いてみたいというニーズの高まりが見て取れる。

進路決定のために知りたかったこと／やって欲しかったこと (N=433)



【参照元データ】

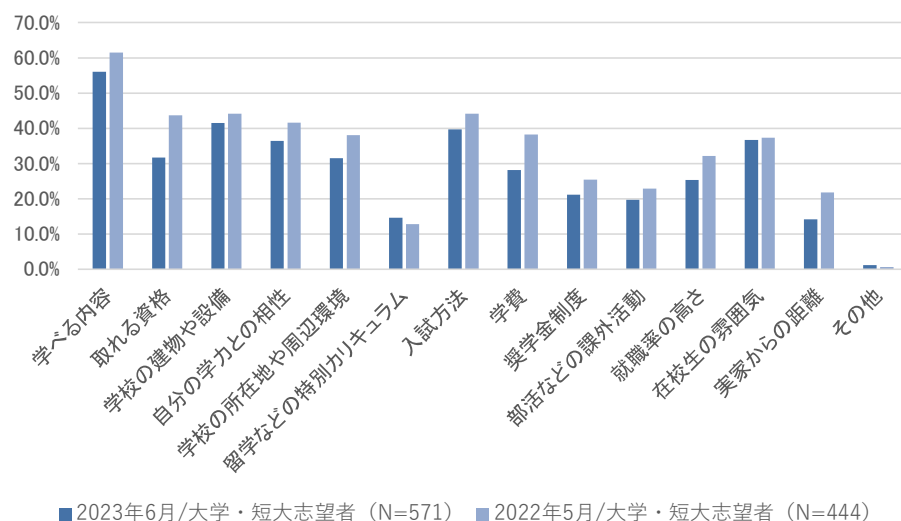
・マイナビ進学会員定期調査2024年3月より高3のみ抽出

オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報

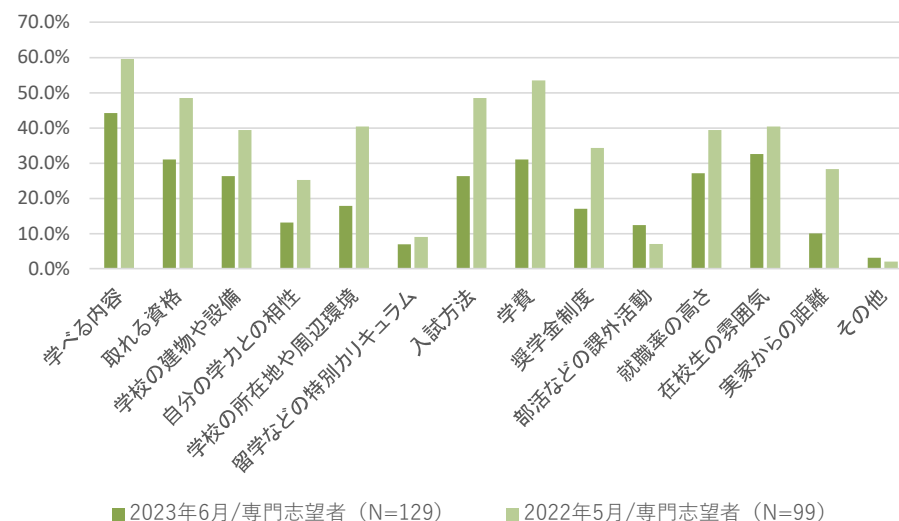
オープンキャンパスで知りたい情報は「学べる内容」

オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報を聞いた。学校種別に関わらず「学べる内容」が最も多い回答となった。大学・短大では「学校の建物や設備」が2番目に多く、学べる環境を自分の目で確認することへのニーズの高さが見て取れる。一方で専門学校は「取れる資格」と「学費」が続く。

大学・短大志望者



専門学校志望者



【参照元データ】

・マイナビ進学会員定期調査2023年6月/2022年5月より高3のみ抽出

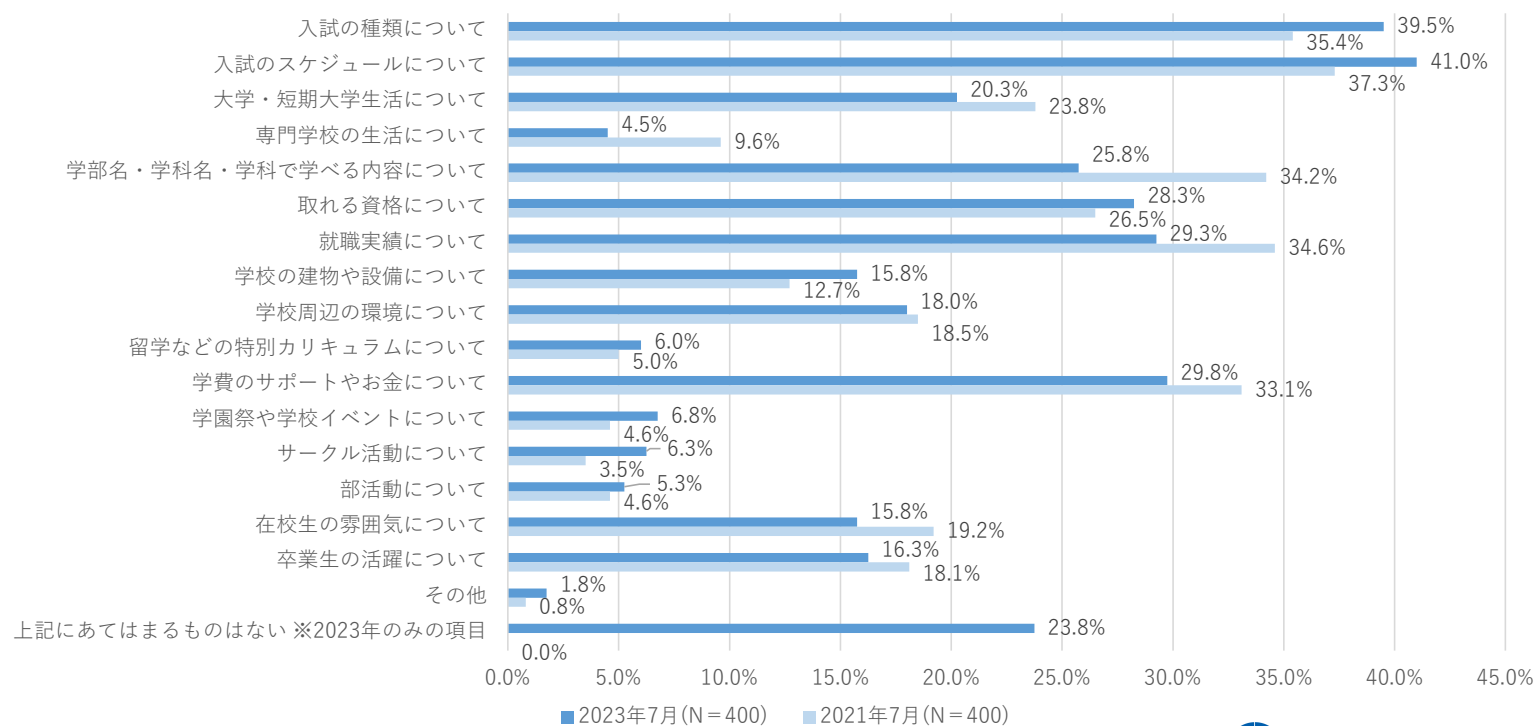
(保護者調査) 子どもの進路選択・学校選びにあたってほしい情報

保護者の欲する情報は“入試系”

高3の子を持つ保護者に対して子どもの進路選択・学校選びにあたってほしい情報を聞いた。最多の回答は「入試のスケジュール」となり「入試の種類」が続く結果に。昨今の入試の変化や多様化に伴い、保護者自身も“入試”に関する情報を欲していることがわかる。一方で「学部名・学科名・学科で学べる内容」は一昨年と比べて10pt近いマイナスとなった。

子どもの進路選択・学校選びにあたってほしい情報

※該当年度の高3生を持つ保護者で比較



【参照元データ】

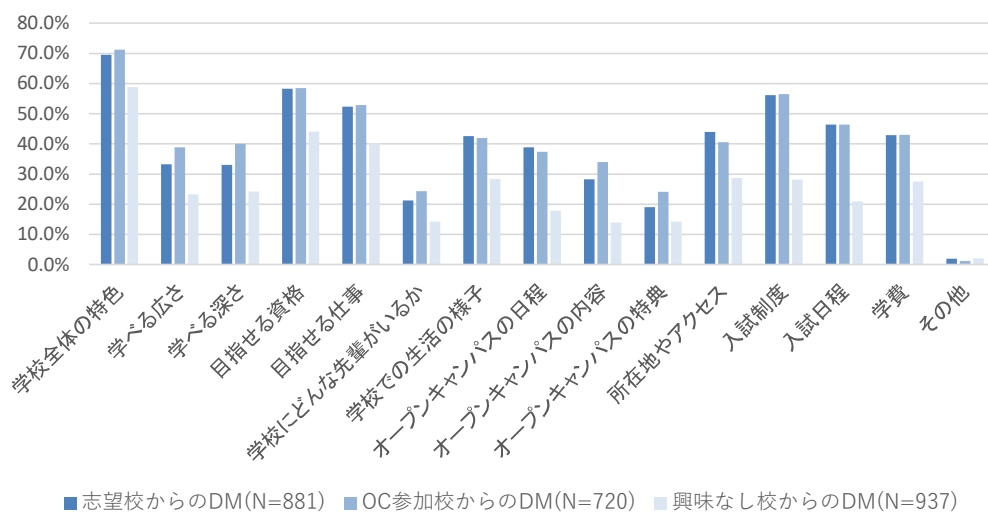
・高校生の進路に関する保護者調査2021年/2023年の高校3年生の保護者のみ抽出

DMでわかると嬉しい情報

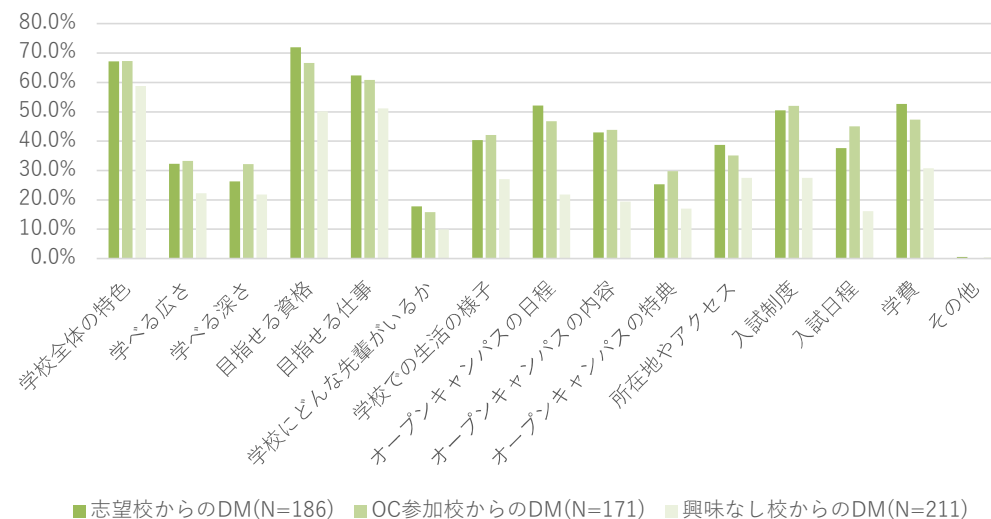
最多回答は大学短大は学校全体の特色、専門は目指せる資格

DMでその学校についてどんな情報がわると嬉しいのかを進路検討度合別（志望校、OC参加校、興味なし校）で聞いた。学校種別に関わらず学校全体の特色、目指せる資格、目指せる仕事の回答割合が高くなった。また志望校とOC校で回答率の差があまり見られなかったため、志望度が高い生徒に対しては、DMで掲載する情報は類似の内容で良いと推測できる。

大学・短大志望者



専門学校志望者



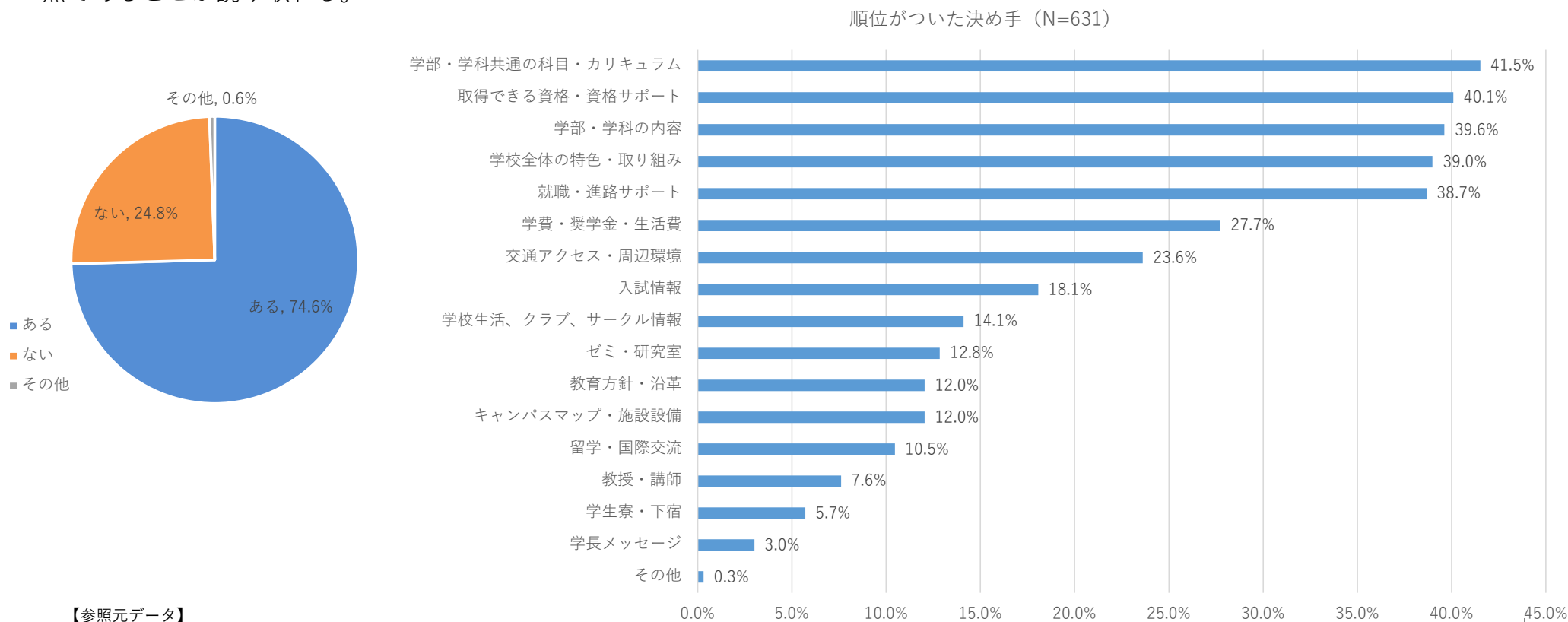
【参照元データ】

・DM等に関する高校生の意識調査より高3のみ抽出

学校案内を読むことによる志望順位の変化

学校案内の影響度合いはまだまだ高い

複数の志望校の学校案内を比較して志望順位が明確になったことがあるか否か（左図）、順位がついた決め手（右図）をそれぞれ聞いた。学校案内を比較することで志望順位が明確になったことが”ある“と答えた割合は7割以上となった。またその決め手としては「学部・学科共通の科目・カリキュラム」などの”学びの内容”や「取得できる資格・資格サポート」などの“就職“に関わる2点であることが読み取れる。



【参照元データ】
・学校案内に関する高校生の意識調査より高3のみ抽出



V.2025年卒以降の展望

情報の受け取り手に適した内容を、適したタイミングで

1. 高校生の活動タイミングは大きく変化が見られた。
資料請求やイベント参加、出願などのアクションは早期化していることもあり
アプローチ時期はしっかりと見定めたい。
2. 自分に合った学校がわからず、誰かに教えてほしい。
高校生の「自分探し」に寄与できる情報を発信することが求められている。
3. 高校生だけでなく保護者への情報発信も必要不可欠に。
高校生と保護者が求める情報には若干相違が見られるため、個別の発信が重要となる。



マイナビ進学総合研究所

本データを出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、「※調査名」（マイナビ進学総合研究所調べ）と明記ください。

資料に関するご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 企画統括本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail : ms-souken@mynavi.jp

URL: <https://souken.shingaku.mynavi.jp>